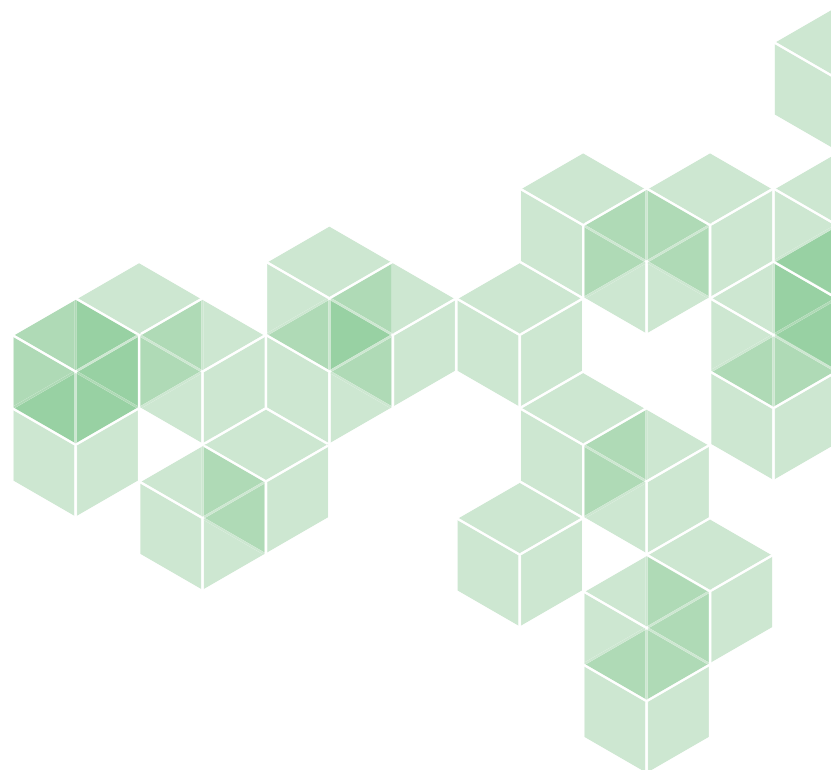




京都銀行
ディスクロージャー誌
2016年9月中間期

The Bank of Kyoto, Ltd.DISCLOSURE



飾らない銀行

 京都銀行

経営理念

当行は創立以来、一貫して「地域社会の繁栄に奉仕する」ことを経営理念として掲げてまいりました。この経営理念のもと、豊かな地域社会の創造と地元産業の発展に貢献することを当行の基本的な使命とし、地元京都における最大のリテールバンクとして、地域社会の皆さまに質の高い金融サービスを提供し、より一層信頼を深めていただけるよう努めております。

金融機関を取り巻く経営環境は、一層厳しさを増しつつありますが、今後とも地域の皆さまから最も信頼され、地元で最も存在感のある銀行となるため、当行の社会的使命の遂行に努めてまいります。

プロフィール

〈平成28年9月30日現在〉

名 称／株式会社 京都銀行／The Bank of Kyoto, Ltd.
本店所在地／京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地
創 立／昭和16年10月
総 資 産／8兆4,081億円
預金・譲渡性預金／7兆3,419億円
貸 出 金／4兆7,436億円
資 本 金／421億円
発行済株式総数／379,203千株
格 付 け／A+（株式会社格付投資情報センター）
平成28年11月2日現在 A（スタンダード&プアーズ）
従 業 員 数／3,573人
拠 点 数／491か所
※本支店165・出張所5・店舗外ATM317・海外駐在員事務所4（香港・上海・大連・バンコク）
※上記のほか、株式会社セブン銀行との提携による共同の店舗外ATM21,270か所

京都銀行では積極的な情報開示 (ディスクロージャー)を推進しています。

本誌は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料（業務及び財産の状況に関する説明書類）です。

なお、平成28年12月発行のミニディスクロージャー誌2016年9月中間期「京都銀行からみなさまへ」では、当行の各種取組みや業績ハイライトなどを掲載しているほか、「中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況」については、より詳細な内容で分かりやすくご紹介しておりますので、あわせてご覧ください。

CONTENTS

事業の概況

経営環境と業績	1
主要な経営指標の推移	2

業績および財務データ

中間連結財務諸表	3
セグメント情報等	11
中間財務諸表	12
損益の状況	17
預金業務	21
貸出業務	23
証券業務	27
有価証券関係情報	29
デリバティブ取引情報	31
国際業務	33
その他	33
株式・資本の状況	33

中小企業の経営の改善及び地域の 活性化のための取組みの状況

中小企業の経営支援に関する取組方針態勢整備	34
中小企業の経営支援に関する取組状況	35
地域の活性化に関する取組状況	38

金融仲介機能の充実に向けた活動 (金融仲介機能のベンチマーク)

事業性評価の取組み	40
ライフステージに応じたソリューション提供	41
事業再生等への支援	41

自己資本の充実の状況

〈自己資本の構成に関する開示事項〉	42
〈定量的な開示事項〉	44
自己資本の充実度	44
信用リスク	46
信用リスク削減手法	57
派生商品取引及び 長期決済期間取引の取引相手のリスク	57
証券化エクスポージャー	58
マーケットリスク	58
銀行勘定における出資等又は 株式等エクスポージャー	59
信用リスク・アセットのみなし計算が 適用されるエクスポージャー	60
銀行勘定における金利リスク	60

索 引	61
-----	----

事業の概況

経営環境と業績

●金融経済環境

当中間連結会計期間のわが国経済は、海外経済が減速する中、年初来の円高・株安や節約志向の高まりなどから、停滞感が強まる展開となりました。この間、企業部門では、輸出関連企業を中心とした収益悪化懸念などから設備投資は伸び悩み、個人消費は、雇用・所得情勢の改善にもかかわらず力強さを欠いたほか、インバウンド需要も一巡するなど、内需・外需ともにけん引役を欠き、先行きに対する不透明感が漂う中で期を終えることとなりました。

●営業の経過及び成果

このような環境のなかでありまして、当行グループは経営の効率化と業績の向上に努めました結果、当中間連結会計期間の業績は次のとおりとなりました。

預金・譲渡性預金の当中間連結会計期間末残高につきましては、個人預金や法人預金を中心に前連結会計年度末比1,269億円増加し、7兆3,176億円となりました。

次に、貸出金の当中間連結会計期間末残高につきましては、企業向け貸出や個人向け貸出を中心に前連結会計年度末比1,371億円増加し、4兆7,355億円となりました。

さらに、有価証券の当中間連結会計期間末残高につきましては、金利や株価、為替などの市場動向に注視しつつ、適切な運用に努めました結果、前連結会計年度末比488億円増加し、2兆8,559億円となりました。なお、時価会計に伴う評価差額（含み益）は、前連結会計年度末比808億円増加し、4,736億円となっております。

また、当中間連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末比2,626億円増加し、8兆4,170億円となり、株主資本は、利益剰余金の増加により前連結会計年度末比83億円増加し、3,869億円となりました。

当中間連結会計期間における損益状況につきましては、経常収益は、その他業務収益が増加したものの、資金運用収益を中心に前年同期比44億61百万円減少し、553億24百万円となりました。

一方、経常費用につきましては、営業経費を中心に前年同期比4億48百万円増加し、394億98百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比49億9百万円減少し、158億26百万円となり、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比31億円減少し、106億2百万円となりました。

当中間連結会計期間のセグメント別の業績につきましては、当行グループの中心である銀行業において、経常収益は、前年同期比47億15百万円減少し、511億58百万円となり、セグメント利益は、前年同期比50億93百万円減少し、143億67百万円となりました。

また、その他において、経常収益は、前年同期比2億11百万円増加し、54億7百万円となり、セグメント利益は、前年同期比1億82百万円増加し、14億77百万円となりました。

主要な経営指標の推移

●連結経営指標

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期	平成27年3月期	平成28年3月期
連結経常収益	58,480	59,785	55,324	114,959	112,689
連結経常利益	19,369	20,735	15,826	36,277	34,088
親会社株主に帰属する中間純利益	12,711	13,702	10,602	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	21,276	21,322
連結中間包括利益	53,776	△ 16,069	67,708	-	-
連結包括利益	-	-	-	156,760	△ 38,283
連結純資産額	595,064	677,486	718,539	695,810	653,053
連結総資産額	7,960,963	8,217,961	8,417,051	8,255,301	8,154,418
連結ベースの1株当たり純資産額	1,555.75円	1,771.52円	1,877.48円	1,821.31円	1,705.75円
連結ベースの1株当たり中間純利益金額	33.63円	36.25円	28.04円	-	-
連結ベースの1株当たり当期純利益金額	-	-	-	56.30円	56.41円
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	33.57円	36.19円	27.99円	-	-
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	-	-	-	56.19円	56.31円
連結自己資本比率（国内基準）	12.95%	12.91%	12.71%	12.51%	13.36%
営業活動によるキャッシュ・フロー	98,213	△ 3,279	22,716	134,352	△ 233,892
投資活動によるキャッシュ・フロー	114,090	181,494	16,039	241,554	246,124
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,269	△ 2,271	△ 5,271	△ 22,537	△ 4,539
現金及び現金同等物の中間期末残高	424,322	758,612	623,819	-	-
現金及び現金同等物の期末残高	-	-	-	582,668	590,351
従業員数	3,672人	3,692人	3,744人	3,569人	3,590人

●単体経営指標

(単位：百万円)

	平成26年9月中間期	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期	平成27年3月期	平成28年3月期
経常収益	54,639	55,874	51,158	107,317	104,654
業務純益	14,238	17,354	12,589	26,212	29,264
経常利益	17,886	19,460	14,367	33,533	31,442
中間純利益	12,220	13,265	10,103	-	-
当期純利益	-	-	-	20,406	20,436
資本金	42,103	42,103	42,103	42,103	42,103
発行済株式総数	379,203千株	379,203千株	379,203千株	379,203千株	379,203千株
純資産額	580,706	662,863	707,153	681,942	643,025
総資産額	7,949,016	8,206,306	8,408,107	8,242,851	8,143,667
預金残高	6,254,604	6,298,505	6,470,794	6,283,242	6,410,736
貸出金残高	4,242,125	4,400,458	4,743,600	4,354,810	4,606,441
有価証券残高	3,145,778	2,915,820	2,857,237	3,165,149	2,806,538
1株当たり配当額	6.00円	6.00円	6.00円	12.00円	12.00円
単体自己資本比率（国内基準）	12.42%	12.39%	12.31%	12.01%	12.95%
従業員数	3,478人	3,514人	3,573人	3,370人	3,410人

業績および財務データ

中間連結財務諸表

当行の中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けております。以下の中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書は、上記の中間連結財務諸表に基づいて作成しております。

●中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	平成27年 9月中間期 (平成27年9月30日現在)	平成28年 9月中間期 (平成28年9月30日現在)
資産の部		
現金預け金	761,383	628,428
コールローン及び買入手形	10,770	61,511
買入金銭債権	10,384	10,459
商品有価証券	540	202
金銭の信託	2,998	2,930
有価証券	2,917,937	2,855,963
貸出金	4,392,574	4,735,588
外国為替	2,735	4,572
リース債権及びリース投資資産	9,868	10,251
その他資産	30,649	22,351
有形固定資産	82,537	82,310
無形固定資産	2,780	2,723
繰延税金資産	1,724	1,535
再評価に係る繰延税金資産	42	-
支払承諾見返	19,346	23,290
貸倒引当金	△ 28,312	△ 25,069
資産の部合計	8,217,961	8,417,051

	平成27年 9月中間期 (平成27年9月30日現在)	平成28年 9月中間期 (平成28年9月30日現在)
負債の部		
預金	6,284,606	6,451,531
譲渡性預金	932,404	866,150
コールマネー及び売渡手形	16,745	6,520
債券貸借取引受入担保金	25,505	42,929
借入金	40,604	84,377
外国為替	235	283
その他負債	73,027	62,943
退職給付に係る負債	29,247	38,077
睡眠預金払戻損失引当金	309	350
偶発損失引当金	1,239	1,111
繰延税金負債	117,203	120,945
再評価に係る繰延税金負債	-	0
支払承諾	19,346	23,290
負債の部合計	7,540,475	7,698,512
純資産の部		
資本金	42,103	42,103
資本剰余金	30,301	30,301
利益剰余金	302,054	315,644
自己株式	△ 1,116	△ 1,065
株主資本合計	373,343	386,983
その他有価証券評価差額金	298,737	330,423
繰延ヘッジ損益	△ 2,196	△ 2,437
土地再評価差額金	△ 89	1
退職給付に係る調整累計額	△ 164	△ 5,185
その他の包括利益累計額合計	296,287	322,802
新株予約権	464	517
非支配株主持分	7,390	8,235
純資産の部合計	677,486	718,539
負債及び純資産の部合計	8,217,961	8,417,051

●中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期 (平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)	平成28年9月中間期 (平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)
経常収益	59,785	55,324
資金運用収益	40,565	35,116
うち貸出金利息	24,796	23,277
うち有価証券利息配当金	15,431	11,540
役務取引等収益	9,854	9,623
その他業務収益	6,026	7,772
その他経常収益	3,339	2,811
経常費用	39,049	39,498
資金調達費用	2,801	2,414
うち預金利息	1,453	1,331
役務取引等費用	3,162	3,248
その他業務費用	2,120	2,540
営業経費	29,714	30,396
その他経常費用	1,250	898
経常利益	20,735	15,826
特別利益	135	0
固定資産処分益	135	0
特別損失	134	98
固定資産処分損	134	98
税金等調整前中間純利益	20,736	15,727
法人税、住民税及び事業税	5,979	4,235
法人税等調整額	656	437
法人税等合計	6,635	4,673
中間純利益	14,100	11,054
非支配株主に帰属する中間純利益	398	451
親会社株主に帰属する中間純利益	13,702	10,602

●中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期 (平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)	平成28年9月中間期 (平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)
中間純利益	14,100	11,054
その他の包括利益	△ 30,170	56,654
その他有価証券評価差額金	△ 30,212	56,036
繰延ヘッジ損益	△ 0	247
退職給付に係る調整額	42	370
中間包括利益	△ 16,069	67,708
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△ 16,416	67,239
非支配株主に係る中間包括利益	347	468

●中間連結株主資本等変動計算書

平成27年9月中間期（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					株主資本合計	新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式					
当期首残高	42,103	30,301	290,491	△ 1,208		361,688			
当中間期変動額									
剰余金の配当			△ 2,267			△ 2,267			△ 2,267
親会社株主に帰属する中間純利益			13,702			13,702			13,702
自己株式の取得				△ 38		△ 38			△ 38
自己株式の処分			△ 24	130		105			105
土地再評価差額金の取崩			152			152			152
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									
当中間期変動額合計	-	-	11,563	91		11,655			11,655
当中間期末残高	42,103	30,301	302,054	△ 1,116		373,343			373,343
	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計	
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計				
当期首残高	328,898	△ 2,195	63	△ 207	326,558	515	7,047	695,810	
当中間期変動額									
剰余金の配当								△ 2,267	
親会社株主に帰属する中間純利益								13,702	
自己株式の取得								△ 38	
自己株式の処分								105	
土地再評価差額金の取崩								152	
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	△ 30,160	△ 0	△ 152	42	△ 30,271	△ 51	343	△ 29,980	
当中間期変動額合計	△ 30,160	△ 0	△ 152	42	△ 30,271	△ 51	343	△ 18,324	
当中間期末残高	298,737	△ 2,196	△ 89	△ 164	296,287	464	7,390	677,486	

平成28年9月中間期（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					株主資本合計	新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式					
当期首残高	42,103	30,301	307,315	△ 1,121		378,599			
当中間期変動額									
剰余金の配当			△ 2,267			△ 2,267			△ 2,267
親会社株主に帰属する中間純利益			10,602			10,602			10,602
自己株式の取得				△ 4		△ 4			△ 4
自己株式の処分			△ 6	60		54			54
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									
当中間期変動額合計	-	-	8,328	55		8,384			8,384
当中間期末残高	42,103	30,301	315,644	△ 1,065		386,983			386,983
	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計	
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計				
当期首残高	274,404	△ 2,684	1	△ 5,556	266,164	518	7,770	653,053	
当中間期変動額									
剰余金の配当								△ 2,267	
親会社株主に帰属する中間純利益								10,602	
自己株式の取得								△ 4	
自己株式の処分								54	
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	56,019	247		370	56,637	△ 1	465	57,101	
当中間期変動額合計	56,019	247	-	370	56,637	△ 1	465	65,486	
当中間期末残高	330,423	△ 2,437	1	△ 5,185	322,802	517	8,235	718,539	

●中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期 (平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)	平成28年9月中間期 (平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	20,736	15,727
減価償却費	2,497	2,304
貸倒引当金の増減(△)	△ 1,976	△ 2,044
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	435	1,158
偶発損失引当金の増減額(△は減少)	109	△ 48
資金運用収益	△ 40,565	△ 35,116
資金調達費用	2,801	2,414
有価証券関係損益(△)	△ 3,593	△ 5,193
金銭の信託の運用損益(△は益)	0	△ 51
為替差損益(△は益)	△ 1,296	16,090
固定資産処分損益(△は益)	△ 0	98
商品有価証券の純増(△)減	△ 385	301
貸出金の純増(△)減	△ 45,114	△ 137,178
預金の純増減(△)	14,397	57,306
譲渡性預金の純増減(△)	18,492	69,643
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	△ 14,204	48,325
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	△ 220	△ 2,118
コールローン等の純増(△)減	25,359	△ 25,876
コールマネー等の純増減(△)	△ 3,683	△ 29,311
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	△ 14,180	18,691
外国為替(資産)の純増(△)減	1,236	△ 614
外国為替(負債)の純増減(△)	87	67
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	△ 413	△ 208
資金運用による収入	43,581	37,300
資金調達による支出	△ 2,757	△ 2,340
その他	929	△ 2,466
小計	2,273	26,861
法人税等の支払額	△ 5,553	△ 4,144
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,279	22,716
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△ 489,924	△ 574,326
有価証券の売却による収入	427,803	391,880
有価証券の償還による収入	246,309	201,164
金銭の信託の増加による支出	△ 1,500	-
有形固定資産の取得による支出	△ 1,268	△ 2,255
有形固定資産の売却による収入	381	0
無形固定資産の取得による支出	△ 305	△ 311
持分法適用関連会社株式の取得による支出	-	△ 103
その他	△ 2	△ 8
投資活動によるキャッシュ・フロー	181,494	16,039
財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入金の返済による支出	-	△ 3,000
配当金の支払額	△ 2,267	△ 2,267
非支配株主への配当金の支払額	△ 4	△ 3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,271	△ 5,271
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 16
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	175,943	33,468
現金及び現金同等物の期首残高	582,668	590,351
現金及び現金同等物の中間期末残高	758,612	623,819

注記事項（平成28年9月中旬期）

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項（平成28年9月中旬期）

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 7社

会社名	
烏丸商事株式会社	京銀ビジネスサービス株式会社
京都信用保証サービス株式会社	京銀リース・キャピタル株式会社
京都クレジットサービス株式会社	京銀カードサービス株式会社
株式会社京都総合経済研究所	

(2) 非連結子会社 2社

会社名
京都・同志社発ベンチャー育成投資事業有限責任組合
京銀輝く未来応援ファンド投資事業有限責任組合
非連結子会社は、その資産、経常収益、中間純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社

該当ありません。

(2) 持分法適用の関連会社 1社

会社名
スカイオーシャン・アセットマネジメント株式会社
(持分法適用の範囲の変更)
スカイオーシャン・アセットマネジメント株式会社は株式取得等により、当中間連結会計期間から持分法適用の範囲に含めております。

(3) 持分法非適用の非連結子会社 2社

会社名
京都・同志社発ベンチャー育成投資事業有限責任組合
京銀輝く未来応援ファンド投資事業有限責任組合

(4) 持分法非適用の関連会社 1社

会社名
きょうと農林漁業成長支援ファンド投資事業有限責任組合
持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、中間純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。 9月末日 7社

4. 開示対象特別目的会社に関する事項

該当事項はありません。

5. 会計方針に関する事項

(1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については原則として中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(ロ) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

(4) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

当行の有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物：8年～50年 その他：3年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

②無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

(5) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権

額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額が一定額以上の債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

(6) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

(7) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、責任共有制度に基づく信用保証協会への負担金の支払い等に備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。

(8) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日連結会計年度から損益処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当中間連結会計期間末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(9) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行の外貨建資産・負債は、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

連結子会社については、当中間連結決算日現在、該当事項ありません。

(10) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) 金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、ヘッジ対象とヘッジ手段を紐付けする方法のほか、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に規定する繰延ヘッジ(キャッシュ・フローを固定するヘッジ)によっております。ヘッジ有効性評価の方法については、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

(ロ) 為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

連結子会社については、当中間連結決算日現在、該当事項ありません。

(11) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

(12) 消費税等の会計処理

当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」の適用) 法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当中間連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当中間連結会計期間の経常利益及び税金等調整前中間純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当中間連結会計期間から適用しております。

(中間連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額	
株式	103百万円
出資金	664百万円
2. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。	
破綻先債権額	3,791百万円
延滞債権額	77,826百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3. 貸出金のうち3か月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3か月以上延滞債権額 112百万円

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3日以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額 522百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。

5. 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額 82,252百万円

なお、上記2. から5. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

6. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

23,310百万円

7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 111,188百万円

担保資産に対応する債務

借入金 54,830百万円

債券貸借取引受入担保金 42,929百万円

預金 12,078百万円

コールマネー 5,056百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券 369,964百万円

また、その他資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金 1,688百万円

8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 1,428,052百万円

うち原契約期間が1年以内のもの又は

任意の時期に無条件で取消可能なもの 1,371,350百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9. 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布 法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

平成14年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)

第2条第4号に定める地価税法に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額(路線価)に基づいて、奥行価格補正、時点修正等の合理的な調整を行って算出。

10. 有形固定資産の減価償却累計額

減価償却累計額 77,389百万円

借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金が含まれております。

劣後特約付借入金 29,000百万円

12. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

18,564百万円

(中間連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

株式等売却益 749百万円

貸倒引当金戻入益 704百万円

2. 営業経費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

給料・手当 12,483百万円

3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

株式等売却損 174百万円

株式等償却 0百万円

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結会計 期間増加株式数	当中間連結会計 期間減少株式数	当中間連結会計 期間末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	379,203	-	-	379,203	
自己株式					
普通株式	1,210	6	65	1,151	(注)

(注) 自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによる取得であり、減少は新株予約権(ストック・オプション)の権利行使による譲渡であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権 の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)			当中間連結 会計期末 残高 (百万円)	摘要
			当連結会計 年度期首	当中間連結会計期間 増加	当中間連結 会計期間末 減少		
当行	ストック・オプション としての新株予約権		—			517	

3. 配当に関する事項

(1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	2,267	6.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年11月14日 取締役会	普通株式	2,268	その他利益 剰余金	6.00	平成28年9月30日	平成28年12月1日

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	628,428百万円
預け金(日銀預け金を除く)	△ 4,608百万円
現金及び現金同等物	623,819百万円

(リース取引関係)

○ 借手側

1. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内 251百万円

1年超 1,720百万円

合計 1,972百万円

○ 貸手側

1. ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

リース料債権部分 10,942百万円

見積残存価格部分 12百万円

受取利息相当額 △ 1,079百万円

合計 9,875百万円

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の中間連結決算日

後の回収予定額

	リース債権	リース投資資産に係る リース料債権部分
1年以内	156	3,336
1年超2年以内	129	2,884
2年超3年以内	68	2,158
3年超4年以内	15	1,390
4年超5年以内	7	729
5年超	6	443

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内 4百万円

1年超 3百万円

合計 7百万円

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、中間連結貸借対照表計上額の重要性が乏しい科目については、記載を省略しております。また、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません(注2)参照。

(単位：百万円)

	中間連結貸借 対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	628,428	628,428	-
(2) 有価証券 その他有価証券	2,850,762	2,850,762	-
(3) 貸出金 貸倒引当金(*1)	4,735,588 △ 23,803		
	4,711,785	4,750,171	38,385
資産計	8,190,976	8,229,362	38,385
(1) 預金	6,451,531	6,452,488	956
(2) 譲渡性預金	866,150	866,159	8
(3) 借入金	84,377	84,938	560
負債計	7,402,060	7,403,586	1,526
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	1,153	1,153	-
ヘッジ会計が適用されているもの	△ 742	△ 742	-
デリバティブ取引計	410	410	-

- (*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。
(*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金についても、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

自行保証付私募債は、内部格付、期間に基づく区分ごとに元利金の合計額を同様に新規に発行を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「(有価証券関係)」に記載しております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

負債

(1) 預金、及び(2) 譲渡性預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行及び連結子会社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、「(デリバティブ取引情報)」(P.31~32)に記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(2)その他有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)

区 分	当中間連結会計期間 (平成28年9月30日)
①非上場株式(*1)(*2)	3,468
②非上場その他の証券(*3)	1,732
合 計	5,200

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(*2) 非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

(*3) 非上場その他の証券のうち、ベンチャーファンド出資金など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしていません。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

該当ありません。

2. その他有価証券

	種類	中間連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
中間連結貸借 対照表計上額が 取得原価を 超えるもの	株式	584,031	158,065	425,966
	債券	1,957,393	1,912,773	44,619
	国債	877,698	851,074	26,624
	地方債	352,776	342,760	10,015
	短期社債	-	-	-
	社債	726,918	718,938	7,979
	その他	175,293	168,905	6,387
	外国債券	125,349	123,419	1,930
	その他	49,944	45,486	4,457
	小計	2,716,718	2,239,744	476,974
中間連結貸借 対照表計上額が 取得原価を 超えないもの	株式	16,709	19,007	△ 2,297
	債券	74,504	75,030	△ 526
	国債	20,699	21,035	△ 336
	地方債	21,582	21,649	△ 67
	短期社債	-	-	-
	社債	32,222	32,345	△ 122
	その他	42,830	43,316	△ 486
	外国債券	20,737	20,843	△ 105
	その他	22,092	22,472	△ 380
	小計	134,043	137,354	△ 3,310
合計	2,850,762	2,377,099	473,663	

3. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間連結貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

当中間連結会計期間における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に以下のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べ下落
要注意先	時価が取得原価に比べ30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べ50%以上下落又は、時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落したもので市場価格が一定水準以下で推移している場合等

なお、破綻先とは、破産、特別清算、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは、実質的に経営破綻に陥っている発行会社であります。破綻懸念先とは、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは、今後の管理に注意を要する発行会社であります。正常先とは、上記破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、及び要注意先以外の発行会社であります。

(金銭の信託関係)

1. 満期保有目的の金銭の信託
該当ありません。

2. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)
該当ありません。

(その他有価証券評価差額金)

中間連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

	金額(百万円)
評価差額	473,663
その他有価証券	473,663
その他の金銭の信託	-
(△) 繰延税金負債	△ 143,092
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	330,571
(△) 非支配株主持分相当額	△ 147
(+) 持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	-
その他有価証券評価差額金	330,423

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名
営業経費 53百万円

2. スtock・オプションの内容

	平成28年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当行の取締役(社外取締役を除く)9名、 当行の執行役員14名
株式の種類別のストック・オプションの付与数(注)	普通株式 158,400株
付与日	平成28年7月28日
権利確定条件	権利確定条件は定めていない
対象勤務期間	対象勤務期間は定めていない
権利行使期間	平成28年7月29日から平成58年7月28日まで
権利行使価格	1株あたり 1円
付与日における公正な評価単価	1株あたり 659円

(注) 株式数に換算して記載しております。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

1株当たり純資産額 1,877円48銭

2. 1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎

(1) 1株当たり中間純利益金額
(算定上の基礎)

親会社株主に帰属する中間純利益 10,602百万円
普通株主に帰属しない金額 -百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 10,602百万円
普通株式の期中平均株式数 378,023千株

(2) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額
(算定上の基礎)

親会社株主に帰属する中間純利益調整額 -百万円
普通株式増加数 649千株
うち新株予約権 649千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要 -

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

セグメント情報等

●セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当行グループは、銀行業を中心とした金融サービスに係る事業を行っております。なお、グループ各社が営む銀行業以外の事業については、重要性が乏しいことから、銀行業のみを報告セグメントとしております。

銀行業は、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、国内為替業務、外国為替業務等を行っております。

2. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前中間連結会計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額	中間連結財務諸表計上額
	銀行業	その他			
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	55,638	4,146	59,785	-	59,785
セグメント間の内部経常収益	235	1,048	1,284	△1,284	-
計	55,874	5,195	61,070	△1,284	59,785
セグメント利益	19,460	1,294	20,755	△19	20,735
セグメント資産	8,206,306	42,282	8,248,588	△30,627	8,217,961
セグメント負債	7,543,442	24,707	7,568,149	△27,673	7,540,475
その他の項目					
減価償却費	2,458	39	2,497	-	2,497
資金運用収益	40,516	104	40,621	△55	40,565
資金調達費用	2,796	41	2,838	△36	2,801
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,567	6	1,573	-	1,573

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業、リース業、クレジットカード業等を含んでおります。

3. 調整額は、次のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△19百万円は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額△30,627百万円は、セグメント間取引消去であります。

(3) セグメント負債の調整額△27,673百万円には、セグメント間取引消去△27,838百万円及び退職給付に係る負債の調整額164百万円が含まれております。

(4) 資金運用収益の調整額△55百万円は、セグメント間取引消去であります。

(5) 資金調達費用の調整額△36百万円は、セグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額	中間連結財務諸表計上額
	銀行業	その他			
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	50,928	4,396	55,324	-	55,324
セグメント間の内部経常収益	230	1,010	1,241	△1,241	-
計	51,158	5,407	56,566	△1,241	55,324
セグメント利益	14,367	1,477	15,844	△18	15,826
セグメント資産	8,408,107	44,875	8,452,982	△35,931	8,417,051
セグメント負債	7,700,953	25,409	7,726,363	△27,850	7,698,512
その他の項目					
減価償却費	2,273	31	2,304	-	2,304
資金運用収益	35,075	87	35,162	△46	35,116
資金調達費用	2,410	37	2,447	△33	2,414
持分法適用会社への投資額	-	103	103	-	103
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,550	17	2,567	-	2,567

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業、リース業、クレジットカード業等を含んでおります。

3. 調整額は、次のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△18百万円は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額△35,931百万円は、セグメント間取引消去であります。

(3) セグメント負債の調整額△27,850百万円には、セグメント間取引消去△33,036百万円及び退職給付に係る負債の調整額5,185百万円が含まれております。

(4) 資金運用収益の調整額△46百万円は、セグメント間取引消去であります。

(5) 資金調達費用の調整額△33百万円は、セグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

●関連情報

前中間連結会計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）

1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	24,952	19,949	14,883	59,785

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	23,533	17,434	14,356	55,324

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

●報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

●報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

●報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

中間財務諸表

当行の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けております。以下の中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書は、上記の中間財務諸表に基づいて作成しております。

●中間貸借対照表

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期 (平成27年9月30日現在)	平成28年9月中間期 (平成28年9月30日現在)
資産の部		
現金預け金	761,068	627,923
コールローン	10,770	61,511
買入金銭債権	5,087	5,390
商品有価証券	540	202
金銭の信託	2,998	2,930
有価証券	2,915,820	2,857,237
貸出金	4,400,458	4,743,600
外国為替	2,735	4,572
その他資産	26,696	18,213
その他の資産	26,696	18,213
有形固定資産	81,786	81,609
無形固定資産	2,719	2,675
再評価に係る繰延税金資産	42	-
支払承諾見返	19,346	23,290
貸倒引当金	△ 23,765	△ 21,051
資産の部合計	8,206,306	8,408,107

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期 (平成27年9月30日現在)	平成28年9月中間期 (平成28年9月30日現在)
負債の部		
預金	6,298,505	6,470,794
譲渡性預金	937,554	871,150
コールマネー	16,745	6,520
債券貸借取引受入担保金	25,505	42,929
借入金	39,914	83,927
外国為替	235	283
その他負債	57,913	46,897
未払法人税等	4,428	3,097
リース債務	36	26
資産除去債務	263	294
その他の負債	53,184	43,479
退職給付引当金	28,923	30,523
睡眠預金払戻損失引当金	309	350
偶発損失引当金	1,239	1,111
繰延税金負債	117,248	123,174
再評価に係る繰延税金負債	-	0
支払承諾	19,346	23,290
負債の部合計	7,543,442	7,700,953
純資産の部		
資本金	42,103	42,103
資本剰余金	30,301	30,301
資本準備金	30,301	30,301
利益剰余金	294,811	307,452
利益準備金	17,456	17,456
その他利益剰余金	277,355	289,996
別途積立金	258,875	274,875
繰越利益剰余金	18,480	15,121
自己株式	△ 1,116	△ 1,065
株主資本合計	366,100	378,792
その他有価証券評価差額金	298,584	330,278
繰延ヘッジ損益	△ 2,196	△ 2,437
土地再評価差額金	△ 89	1
評価・換算差額等合計	296,298	327,843
新株予約権	464	517
純資産の部合計	662,863	707,153
負債及び純資産の部合計	8,206,306	8,408,107

●中間損益計算書

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期 (平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)	平成28年9月中間期 (平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)
経常収益	55,874	51,158
資金運用収益	40,516	35,075
うち貸出金利息	24,765	23,254
うち有価証券利息配当金	15,415	11,523
役務取引等収益	8,165	7,858
その他業務収益	3,845	5,557
その他経常収益	3,346	2,667
経常費用	36,414	36,791
資金調達費用	2,796	2,410
うち預金利息	1,454	1,332
役務取引等費用	3,305	3,354
その他業務費用	187	551
営業経費	28,885	29,587
その他経常費用	1,240	888
経常利益	19,460	14,367
特別利益	135	0
特別損失	134	97
税引前中間純利益	19,461	14,269
法人税、住民税及び事業税	5,594	3,782
法人税等調整額	601	384
法人税等合計	6,195	4,166
中間純利益	13,265	10,103

●中間株主資本等変動計算書

平成27年9月中間期（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）

（単位：百万円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金	別途積立金	
当期首残高	42,103	30,301	30,301	17,456	245,875	20,354	283,685
当中間期変動額							
剰余金の配当						△ 2,267	△ 2,267
別途積立金の積立					13,000	△ 13,000	-
中間純利益						13,265	13,265
自己株式の取得							
自己株式の処分						△ 24	△ 24
土地再評価差額金の取崩						152	152
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）							
当中間期変動額合計	-	-	-	-	13,000	△ 1,873	11,126
当中間期末残高	42,103	30,301	30,301	17,456	258,875	18,480	294,811

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△ 1,208	354,882	328,676	△ 2,195	63	326,544	515	681,942
当中間期変動額								
剰余金の配当		△ 2,267						△ 2,267
別途積立金の積立		-						-
中間純利益		13,265						13,265
自己株式の取得	△ 38	△ 38						△ 38
自己株式の処分	130	105						105
土地再評価差額金の取崩		152						152
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）			△ 30,091	△ 0	△ 152	△ 30,245	△ 51	△ 30,296
当中間期変動額合計	91	11,218	△ 30,091	△ 0	△ 152	△ 30,245	△ 51	△ 19,078
当中間期末残高	△ 1,116	366,100	298,584	△ 2,196	△ 89	296,298	464	662,863

平成28年9月中間期（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）

（単位：百万円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金	別途積立金	
当期首残高	42,103	30,301	30,301	17,456	258,875	23,292	299,623
当中間期変動額							
剰余金の配当						△ 2,267	△ 2,267
別途積立金の積立					16,000	△ 16,000	-
中間純利益						10,103	10,103
自己株式の取得							
自己株式の処分						△ 6	△ 6
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）							
当中間期変動額合計	-	-	-	-	16,000	△ 8,170	7,829
当中間期末残高	42,103	30,301	30,301	17,456	274,875	15,121	307,452

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△ 1,121	370,907	274,282	△ 2,684	1	271,599	518	643,025
当中間期変動額								
剰余金の配当		△ 2,267						△ 2,267
別途積立金の積立		-						-
中間純利益		10,103						10,103
自己株式の取得	△ 4	△ 4						△ 4
自己株式の処分	60	54						54
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）			55,996	247		56,244	△ 1	56,242
当中間期変動額合計	55	7,885	55,996	247	-	56,244	△ 1	64,127
当中間期末残高	△ 1,065	378,792	330,278	△ 2,437	1	327,843	517	707,153

注記事項（平成28年9月中旬期）

重要な会計方針（平成28年9月中旬期）

- 商品有価証券の評価基準及び評価方法
商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。
- 有価証券の評価基準及び評価方法
(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- 固定資産の減価償却の方法
(1) 有形固定資産(リース資産を除く)
有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。
また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建物：8年～50年 その他：3年～20年
- (2) 無形固定資産(リース資産を除く)
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
- (3) リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- 引当金の計上基準
(1) 貸倒引当金
貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。
破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額が一定額以上の債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。
上記以外の債権については、過去的一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。
- (2) 退職給付引当金
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。
数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から損益処理
- (3) 睡眠預金払戻損失引当金
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認められる額を計上しております。
- (4) 偶発損失引当金
偶発損失引当金は、責任共有制度に基づく信用保証協会への負担金の支払い等に備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。

- 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建の資産・負債については、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。
 - ヘッジ会計の方法
(イ) 金利リスク・ヘッジ
金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、ヘッジ対象とヘッジ手段を紐付けする方法のほか、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に規定する繰延ヘッジ(キャッシュ・フローを固定するヘッジ)によっております。ヘッジ有効性評価の方法については、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。
 - (ロ) 為替変動リスク・ヘッジ
外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
 - その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項
(1) 退職給付に係る会計処理
退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、中間連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。
 - (2) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。
- (会計方針の変更)
(「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」の適用)
法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当中間会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。
なお、当中間会計期間の経常利益及び税引前中間純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当中間会計期間から適用しております。

(中間貸借対照表関係)

- 関係会社の株式又は出資金の総額
株式 2,723百万円
出資金 664百万円
- 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。
破綻先債権額 3,646百万円
延滞債権額 76,783百万円
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 貸出金のうち3か月以上延滞債権額は次のとおりであります。
3か月以上延滞債権額 112百万円
なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3日以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。
貸出条件緩和債権額 521百万円
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。
合計額 81,064百万円
なお、上記2. から5. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

6. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

23,310百万円

7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券

111,188百万円

担保資産に対応する債務

借入金

54,830百万円

債券貸借取引受入担保金

42,929百万円

預金

12,078百万円

コールマネー

5,056百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券

369,964百万円

また、その他の資産には保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金

1,680百万円

8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高

1,402,150百万円

うち原契約期間が1年以内のもの又は

1,345,448百万円

任意の時期に無条件で取消可能なもの

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金が含まれております。

劣後特約付借入金

29,000百万円

10. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

18,564百万円

(中間損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

株式等売却益

651百万円

貸倒引当金戻入益

638百万円

2. 減価償却実施額は次のとおりであります。

有形固定資産

1,791百万円

無形固定資産

472百万円

3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

株式等売却損

174百万円

株式等償却

0百万円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

損益の状況

●業務粗利益

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用収支	36,966	754	37,720	32,107	558	32,665
資金運用収益	39,303	1,226	40,513	33,536	1,547	35,075
資金調達費用	2,336	472	2,795	1,428	988	2,409
役務取引等収支	4,792	68	4,860	4,426	77	4,503
役務取引等収益	8,034	131	8,165	7,720	138	7,858
役務取引等費用	3,242	62	3,305	3,293	60	3,354
その他業務収支	3,117	540	3,657	3,420	1,585	5,006
その他業務収益	3,295	549	3,845	3,924	1,633	5,557
その他業務費用	178	8	187	503	47	551
業務粗利益	44,876	1,363	46,239	39,954	2,221	42,176
業務粗利益率	1.32%	1.05%	1.31%	1.15%	1.67%	1.17%

(注) 1. 国内業務部門は円建取引、国際業務部門は外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2. 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用（平成27年9月期0百万円、平成28年9月期0百万円）を控除して表示しております。

3. 資金運用収益および資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

4. 業務粗利益率 = $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times \frac{\text{年間日数 (365日)}}{\text{期中日数 (183日)}} \times 100$

5. 当行は特定取引勘定非設置行であるため、特定取引収支は該当ありません。

●資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

●国内業務部門

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	(39,138) 6,775,037	(13) 39,303	1.15%	(38,575) 6,913,283	(7) 33,536	0.96%
うち貸出金	4,231,813	24,509	1.15	4,528,283	22,796	1.00
商品有価証券	301	1	1.02	318	1	0.99
有価証券	2,459,161	14,514	1.17	2,304,459	10,545	0.91
コールローン	37,612	22	0.12	34,094	0	0.00
預け金	1,161	2	0.42	1,897	1	0.20
資金調達勘定	6,960,354	2,336	0.06%	7,099,287	1,428	0.04%
うち預金	6,100,686	1,188	0.03	6,277,960	620	0.01
譲渡性預金	820,977	402	0.09	756,054	72	0.01
コールマネー	1,087	0	0.09	9,092	△ 0	△ 0.02
借入金	38,886	304	1.56	57,494	258	0.89

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（平成27年9月期443,721百万円、平成28年9月期458,137百万円）を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高（平成27年9月期2,926百万円、平成28年9月期2,878百万円）および利息（平成27年9月期0百万円、平成28年9月期0百万円）を、それぞれ控除して表示しております。

2. ()内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息(内書き)であります。

●国際業務部門

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	258,104	1,226	0.94%	263,890	1,547	1.16%
うち貸出金	76,133	256	0.67	85,876	458	1.06
有価証券	163,172	899	1.09	151,480	976	1.28
コールローン	14,660	52	0.71	17,252	88	1.02
資金調達勘定	(39,138) 258,321	(13) 472	0.36%	(38,575) 262,476	(7) 988	0.75%
うち預金	160,656	266	0.33	171,337	712	0.82
コールマネー	18,062	50	0.56	9,491	49	1.03
債券貸借取引受入担保金	32,314	32	0.20	37,711	68	0.36
借入金	8,009	16	0.39	5,218	22	0.84

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成27年9月期330百万円、平成28年9月期357百万円)を控除して表示しております。

2. ()内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息(内書き)であります。

3. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は月次カレント方式(前月末TT仲値を当該月のノンエクステンジ取引に適用する方式)により算出しております。

●合計

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	6,994,003	40,516	1.15%	7,138,598	35,075	0.98%
うち貸出金	4,307,947	24,765	1.14	4,614,159	23,254	1.00
商品有価証券	301	1	1.02	318	1	0.99
有価証券	2,622,334	15,413	1.17	2,455,940	11,521	0.93
コールローン	52,272	75	0.28	51,346	88	0.34
預け金	1,161	2	0.42	1,897	1	0.20
資金調達勘定	7,179,537	2,795	0.07%	7,323,188	2,409	0.06%
うち預金	6,261,343	1,454	0.04	6,449,297	1,332	0.04
譲渡性預金	820,977	402	0.09	756,054	72	0.01
コールマネー	19,150	51	0.53	18,584	48	0.52
債券貸借取引受入担保金	32,314	32	0.20	37,711	68	0.36
借入金	46,896	320	1.36	62,712	280	0.89

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成27年9月期444,051百万円、平成28年9月期458,494百万円)を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高(平成27年9月期2,926百万円、平成28年9月期2,878百万円)および利息(平成27年9月期0百万円、平成28年9月期0百万円)を、それぞれ控除して表示しております。

2. 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息は、相殺して記載しております。

●受取・支払利息の分析

●国内業務部門

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	△ 401	972	570	802	△ 6,569	△ 5,767
うち貸出金	888	△ 2,172	△ 1,283	1,717	△ 3,429	△ 1,712
商品有価証券	0	△ 0	0	0	△ 0	0
有価証券	△ 999	2,683	1,683	△ 913	△ 3,056	△ 3,969
コールローン	△ 5	1	△ 3	△ 2	△ 20	△ 22
預け金	1	0	1	1	△ 2	△ 0
支払利息	73	△ 209	△ 135	46	△ 955	△ 908
うち預金	27	△ 80	△ 53	34	△ 602	△ 568
譲渡性預金	52	△ 67	△ 15	△ 31	△ 298	△ 329
コールマネー	0	0	0	3	△ 5	△ 1
借入金	△ 115	76	△ 38	145	△ 191	△ 46

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

●国際業務部門

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	△ 154	137	△ 17	27	293	320
うち貸出金	80	△ 2	77	32	168	201
有価証券	0	△ 15	△ 15	△ 64	141	77
コールローン	△ 108	26	△ 82	9	26	35
支払利息	△ 40	188	148	7	508	516
うち預金	△ 31	113	81	17	428	446
コールマネー	△ 4	19	15	△ 24	22	△ 1
債券貸借取引受入担保金	△ 3	8	5	5	30	36
借入金	△ 0	1	1	△ 5	11	6

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

●合計

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	△ 630	1,183	553	837	△ 6,278	△ 5,441
うち貸出金	1,032	△ 2,237	△ 1,205	1,760	△ 3,271	△ 1,510
商品有価証券	0	△ 0	0	0	△ 0	0
有価証券	△ 1,008	2,677	1,668	△ 978	△ 2,914	△ 3,892
コールローン	△ 92	6	△ 85	△ 1	14	13
預け金	1	0	1	1	△ 2	△ 0
支払利息	62	△ 50	12	55	△ 442	△ 386
うち預金	22	5	28	43	△ 165	△ 122
譲渡性預金	52	△ 67	△ 15	△ 31	△ 298	△ 329
コールマネー	△ 3	18	15	△ 1	△ 1	△ 2
債券貸借取引受入担保金	△ 3	8	5	5	30	36
借入金	△ 107	70	△ 37	108	△ 147	△ 39

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

●利鞘

(単位：%)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用利回り	1.15	0.94	1.15	0.96	1.16	0.98
資金調達原価	0.88	0.67	0.88	0.85	1.06	0.87
総資金利鞘	0.27	0.27	0.27	0.11	0.10	0.11

●役務取引の状況

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
役務取引等収益	8,034	131	8,165	7,720	138	7,858
うち預金・貸出業務	1,651	-	1,651	1,743	-	1,743
為替業務	2,233	127	2,361	2,222	135	2,358
証券関連業務	86	-	86	120	-	120
代理業務	113	-	113	125	-	125
保護預り・貸金庫業務	390	-	390	403	-	403
保証業務	34	2	37	40	1	42
投資信託・保険販売業務	2,523	-	2,523	1,837	-	1,837
役務取引等費用	3,242	62	3,305	3,293	60	3,354
うち為替業務	383	40	424	381	39	421

●営業経費の内訳

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期
給料・手当	11,666	12,013
退職給付費用	1,044	1,204
福利厚生費	230	239
減価償却費	2,458	2,273
土地建物機械賃借料	821	853
営繕費	84	90
消耗品費	380	430
給水光熱費	307	283
旅費	56	43
通信費	633	635
広告宣伝費	352	345
租税公課	2,012	2,166
その他	8,836	9,007
計	28,885	29,587

●その他業務利益の内訳

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期
国内業務部門	3,117	3,420
商品有価証券売買益	△ 0	0
国債等債券売却損益	2,804	3,445
国債等債券償還損益	-	-
国債等債券償却	△ 0	-
金融派生商品損益	314	△ 25
その他	0	-
国際業務部門	540	1,585
外国為替売買益	291	412
国債等債券売却損益	249	1,173
国債等債券償還損益	-	-
国債等債券償却	-	-
金融派生商品損益	-	-
その他	-	-

●業務純益

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期
業務純益	17,354	12,589

(注) 業務純益は、預金、貸出金、有価証券などの利息収支を示す「資金利益」、各種手数料などの収支を示す「役務取引等利益」、債券や外国為替などの売買損益を示す「その他業務利益」の3つを合計した「業務粗利益」と、控除項目である「一般貸倒引当金繰入額」および「経費」から構成されています。なお、この「業務純益」は、銀行が一般に公表する損益計算書の様式には設けられていません。

●利益率

(単位：%)

	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期
総資産経常利益率	0.50	0.36
総資産中間純利益率	0.34	0.25

(注) 1. 総資産経常(中間純)利益率 = $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{総資産(除く支払保証見返)平均残高}} \times \frac{\text{年間日数(365日)}}{\text{期中日数(183日)}} \times 100$

(単位：%)

	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期
資本経常利益率	10.90	7.70
資本中間純利益率	7.43	5.41

2. 資本経常(中間純)利益率 = $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{資本勘定平均残高}} \times \frac{\text{年間日数(365日)}}{\text{期中日数(183日)}} \times 100$

預金業務

●預金科目別残高

(単位：億円、%)

		平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
流動性預金	期末残高	34,800(49.2)	-(-)	34,800(48.1)	36,250(50.6)	-(-)	36,250(49.4)
	平均残高	34,925(50.5)	-(-)	34,925(49.3)	36,424(51.8)	-(-)	36,424(50.5)
うち有利息預金	期末残高	29,386(41.5)		29,386(40.6)	30,826(43.0)		30,826(42.0)
	平均残高	29,303(42.3)		29,303(41.4)	30,707(43.7)		30,707(42.6)
定期性預金	期末残高	26,217(37.1)	-(-)	26,217(36.2)	26,337(36.7)	-(-)	26,337(35.8)
	平均残高	25,745(37.2)	-(-)	25,745(36.4)	26,002(37.0)	-(-)	26,002(36.1)
うち固定金利定期預金	期末残高	25,932(36.7)		25,932(35.8)	26,074(36.4)		26,074(35.5)
	平均残高	25,471(36.8)		25,471(36.0)	25,749(36.6)		25,749(35.7)
変動金利定期預金	期末残高	1(0.0)		1(0.0)	1(0.0)		1(0.0)
	平均残高	1(0.0)		1(0.0)	1(0.0)		1(0.0)
その他の預金	期末残高	354(0.5)	1,612(100.0)	1,967(2.7)	355(0.5)	1,764(100.0)	2,119(2.9)
	平均残高	335(0.4)	1,606(100.0)	1,941(2.7)	351(0.5)	1,713(100.0)	2,065(2.9)
預金合計	期末残高	61,372(86.8)	1,612(100.0)	62,985(87.0)	62,943(87.8)	1,764(100.0)	64,707(88.1)
	平均残高	61,006(88.1)	1,606(100.0)	62,613(88.4)	62,779(89.3)	1,713(100.0)	64,492(89.5)
譲渡性預金	期末残高	9,375(13.2)	-(-)	9,375(13.0)	8,711(12.2)	-(-)	8,711(11.9)
	平均残高	8,209(11.9)	-(-)	8,209(11.6)	7,560(10.7)	-(-)	7,560(10.5)
総合計	期末残高	70,748(100.0)	1,612(100.0)	72,360(100.0)	71,654(100.0)	1,764(100.0)	73,419(100.0)
	平均残高	69,216(100.0)	1,606(100.0)	70,823(100.0)	70,340(100.0)	1,713(100.0)	72,053(100.0)

- (注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
固定金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する定期預金
変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金
3. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。
4. ()内は構成比

●定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	平成27年9月30日				平成28年9月30日			
	定期預金				定期預金			
	うち固定金利 定期預金	変動金利 定期預金	その他		うち固定金利 定期預金	変動金利 定期預金	その他	
残存期間								
3か月未満	907,266	907,151	9	104	921,038	920,930	12	94
3か月以上6か月未満	495,180	495,161	19		504,582	504,581	0	
6か月以上1年未満	755,034	755,018	15		758,243	758,234	9	
1年以上2年未満	206,896	206,874	22		233,298	233,238	59	
2年以上3年未満	194,236	194,198	38		162,194	162,174	19	
3年以上	34,803	34,803	-		28,313	28,313	-	
合計	2,593,418	2,593,208	104	104	2,607,669	2,607,473	101	94

(注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

●1店舗当たり預金

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
営業店舗数	163店	165店
1店舗当たり預金額	44,393	44,496

(注) 1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。
2. 店舗数には出張所を含んでおりません。

●従業員1人当たり預金

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
従業員数	3,527人	3,587人
従業員1人当たり預金額	2,051	2,046

(注) 1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。
2. 従業員数は期中平均人員を記載しております。なお、従業員数には本部人員を含んでおります。

●預金者別預金残高

(単位：億円、%)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
個人預金	42,269 (67.1)	42,983 (66.4)
法人預金	16,768 (26.6)	18,238 (28.2)
その他預金	3,947 (6.3)	3,485 (5.4)
合 計	62,985 (100.0)	64,707 (100.0)

(注) 1. その他預金=公金預金+金融機関預金
2. 譲渡性預金は含んでおりません。
3. ()内は構成比

●財形貯蓄残高

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
一般財形預金	41,490	42,997
財形年金預金	6,187	6,115
財形住宅預金	4,650	4,569
合 計	52,328	53,682

貸出業務

●貸出金科目別残高

(単位：億円、%)

		平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
手形貸付	期末残高	890(2.0)	82(10.5)	972(2.2)	808(1.7)	48(5.8)	856(1.8)
	平均残高	884(2.1)	73(9.7)	958(2.2)	810(1.8)	56(6.6)	867(1.9)
証書貸付	期末残高	37,543(86.9)	701(89.5)	38,245(86.9)	41,255(88.6)	795(94.2)	42,050(88.6)
	平均残高	37,132(87.8)	687(90.3)	37,820(87.8)	40,290(89.0)	801(93.4)	41,092(89.1)
当座貸越	期末残高	4,532(10.5)	- (-)	4,532(10.3)	4,296(9.2)	- (-)	4,296(9.1)
	平均残高	4,042(9.5)	- (-)	4,042(9.4)	3,943(8.7)	- (-)	3,943(8.5)
割引手形	期末残高	254(0.6)	- (-)	254(0.6)	232(0.5)	- (-)	232(0.5)
	平均残高	258(0.6)	- (-)	258(0.6)	237(0.5)	- (-)	237(0.5)
合計	期末残高	43,221(100.0)	783(100.0)	44,004(100.0)	46,591(100.0)	844(100.0)	47,436(100.0)
	平均残高	42,318(100.0)	761(100.0)	43,079(100.0)	45,282(100.0)	858(100.0)	46,141(100.0)

(注) 1. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

2. ()内は構成比

●貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
	貸出金	うち変動金利	固定金利	貸出金	うち変動金利	固定金利
残存期間						
1年以下	665,450			651,462		
1年超3年以下	798,401	340,576	457,825	826,700	303,223	523,476
3年超5年以下	639,216	275,783	363,432	747,504	301,533	445,971
5年超7年以下	419,404	194,029	225,375	434,086	181,628	252,458
7年超	1,434,068	722,247	711,820	1,662,882	748,230	914,652
期間の定めのないもの	443,917	443,917	-	420,964	420,964	-
合計	4,400,458			4,743,600		

(注) 1. 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

2. 残存期間別残高は、各残存期間の約定返済額により算出しております。

●1店舗当たり貸出金

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
営業店舗数	163店	165店
1店舗当たり貸出金	26,996	28,749

(注) 店舗数には出張所を含んでおりません。

●従業員1人当たり貸出金

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
従業員数	3,527人	3,587人
従業員1人当たり貸出金	1,247	1,322

(注) 従業員数は期中平均人員を記載しております。なお、従業員数には本部人員を含んでおります。

●貸出金の預金に対する比率

(単位：百万円)

	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
貸出金 (A)	4,322,105	78,352	4,400,458	4,659,184	84,415	4,743,600
預金 (B)	7,074,825	161,234	7,236,060	7,165,475	176,469	7,341,944
預貸率 (A) / (B)	61.09%	48.59%	60.81%	65.02%	47.83%	64.60%
期中平均	61.13%	47.38%	60.82%	64.37%	50.12%	64.03%

(注) 預金には、譲渡性預金を含んでおります。

●貸出金・支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

	平成27年9月30日		平成28年9月30日	
	貸出金残高	支払承諾見返残高	貸出金残高	支払承諾見返残高
有価証券	4,463	10	3,097	9
債権	18,231	192	16,259	169
商品	-	-	-	-
不動産	331,203	1,107	329,527	1,614
その他	6,299	4,018	623	4,005
計	360,197	5,329	349,507	5,797
保証	1,641,314	10	1,650,848	8
信用	2,398,946	14,006	2,743,244	17,484
合計	4,400,458	19,346	4,743,600	23,290

●貸出金使途別残高

(単位：百万円)

	平成27年9月30日		平成28年9月30日	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設備資金	2,034,388	46.23%	2,135,375	45.02%
運転資金	2,366,069	53.77%	2,608,224	54.98%
合計	4,400,458	100.00%	4,743,600	100.00%

●業種別貸出状況

(単位：百万円)

	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
	貸出先数	貸出金残高	構成比	貸出先数	貸出金残高	構成比
全店分 (除く特別国際金融取引勘定分)	186,230先	4,400,458	100.00%	185,888先	4,743,600	100.00%
製造業	5,611	793,560	18.03	5,622	808,470	17.04
農業、林業	168	2,427	0.06	158	2,582	0.05
漁業	4	65	0.00	4	81	0.00
鉱業、採石業、砂利採取業	11	687	0.02	11	16,117	0.34
建設業	3,865	126,367	2.87	3,903	124,678	2.63
電気・ガス・熱供給・水道業	30	47,999	1.09	45	54,290	1.14
情報通信業	349	52,553	1.19	338	52,855	1.11
運輸業、郵便業	644	154,088	3.50	671	189,649	4.00
卸売業・小売業	6,106	505,545	11.49	6,052	516,881	10.90
金融業・保険業	129	140,215	3.19	138	174,445	3.68
不動産業、物品賃貸業	5,289	495,981	11.27	5,599	551,985	11.64
各種サービス業	7,435	355,244	8.07	7,640	371,996	7.84
地方公共団体	86	356,363	8.10	93	450,923	9.51
個人	156,483	1,363,977	31.00	155,587	1,403,899	29.60
その他	20	5,379	0.12	27	24,741	0.52
特別国際金融取引勘定分	-	-	-	-	-	-
政府等	-	-	-	-	-	-
金融機関	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-
合計	186,230	4,400,458		185,888	4,743,600	

●中小企業等に対する貸出金

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日		平成27年9月30日	平成28年9月30日
総貸出先数	186,230先	185,888先	総貸出金残高	4,400,458	4,743,600
うち中小企業等貸出先数 (総貸出先に占める割合)	185,511先 (99.61%)	185,137先 (99.59%)	うち中小企業等貸出金残高 (総貸出金に占める割合)	3,083,114 (70.06%)	3,229,294 (68.07%)

(注) 1. 貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。

2. 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

●住宅ローン・消費者ローン残高

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
住宅ローン	1,475,728	1,512,323
消費者ローン	21,246	23,361
合計	1,496,975	1,535,685

●特定海外債権残高

該当ありません。

●貸倒引当金残高、期中増減額

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期					平成28年9月中間期				
	期首残高	期中 増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中 増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	11,810	11,165	-	※11,810	11,165	10,859	10,021	-	※10,859	10,021
個別貸倒引当金	13,765	12,600	1,249	※12,515	12,600	12,040	11,030	1,209	※10,831	11,030
うち非居住者向け債権分	-	159	-	-	159	159	143	-	※159	143
特定海外債権引当勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25,575				23,765	22,899				21,051

(注) ※は洗替による取崩額であります。

●貸出金償却額

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期
貸出金償却額	0	23

●金融再生法に基づく開示債権残高

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	8,011	6,933
危険債権	83,899	73,517
要管理債権	668	634
正常債権	4,345,960	4,706,703

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始・更生手続開始・再生手続開始の申立て等により経営破綻となった債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権であります。
2. 危険債権とは、債務者の財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本および利息の受け取りができない可能性の高い債権であります。
3. 要管理債権とは、元金または利息の支払いが3か月以上延滞している債権、および債務者の再建または支援をはかり、当該債権の回収をはかることなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行っている債権であります。
4. 正常債権とは、債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」および「要管理債権」以外のものに区分される債権であります。

●リスク管理債権残高

(単位：百万円)

	単体	
	平成27年9月30日	平成28年9月30日
破綻先債権	4,344	3,646
延滞債権	87,448	76,783
3か月以上延滞債権	-	112
貸出条件緩和債権	668	521
合 計	92,462	81,064

	連結	
	平成27年9月30日	平成28年9月30日
破綻先債権	4,581	3,791
延滞債権	88,558	77,826
3か月以上延滞債権	-	112
貸出条件緩和債権	669	522
合 計	93,809	82,252

- (注) 1. リスク管理債権残高は、担保及び貸倒引当金を控除する前の金額であります。
2. 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
3. 延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
4. 3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
5. 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取り決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。

証券業務

●有価証券残高

(単位：億円、%)

		平成27年9月中間期			平成28年9月中間期		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
国債	期末残高	9,744 (35.3)		9,744 (33.4)	8,983 (33.2)		8,983 (31.4)
	平均残高	10,451 (42.5)		10,451 (39.9)	8,903 (38.6)		8,903 (36.3)
地方債	期末残高	3,566 (12.9)		3,566 (12.3)	3,743 (13.8)		3,743 (13.1)
	平均残高	3,560 (14.5)		3,560 (13.6)	3,731 (16.2)		3,731 (15.2)
短期社債	期末残高	- (-)		- (-)	- (-)		- (-)
	平均残高	- (-)		- (-)	- (-)		- (-)
社債	期末残高	7,642 (27.7)		7,642 (26.2)	7,591 (28.0)		7,591 (26.6)
	平均残高	8,064 (32.8)		8,064 (30.8)	7,935 (34.5)		7,935 (32.3)
株式	期末残高	5,723 (20.7)		5,723 (19.6)	6,054 (22.3)		6,054 (21.2)
	平均残高	1,826 (7.4)		1,826 (6.9)	1,845 (8.0)		1,845 (7.5)
その他の証券	期末残高	958 (3.4)	1,523 (100.0)	2,481 (8.5)	737 (2.7)	1,460 (100.0)	2,198 (7.7)
	平均残高	688 (2.8)	1,631 (100.0)	2,319 (8.8)	628 (2.7)	1,514 (100.0)	2,143 (8.7)
うち外国債券	期末残高		1,523 (100.0)	1,523 (5.2)		1,460 (100.0)	1,460 (5.1)
	平均残高		1,631 (100.0)	1,631 (6.2)		1,514 (100.0)	1,514 (6.2)
外国株式	期末残高		- (-)	- (-)		- (-)	- (-)
	平均残高		- (-)	- (-)		- (-)	- (-)
合計	期末残高	27,634 (100.0)	1,523 (100.0)	29,158 (100.0)	27,111 (100.0)	1,460 (100.0)	28,572 (100.0)
	平均残高	24,591 (100.0)	1,631 (100.0)	26,223 (100.0)	23,044 (100.0)	1,514 (100.0)	24,559 (100.0)

(注) 1. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

2. ()内は構成比

●有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

	平成27年9月30日							
	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
国債	52,761	145,765	378,048	268,230	129,619	-	-	974,424
地方債	50,070	48,172	122,254	57,286	78,816	-	-	356,600
短期社債	-	-	-	-	-	-	-	-
社債	235,113	298,025	168,919	53,923	8,299	-	-	764,280
株式	-	-	-	-	-	-	572,339	572,339
その他の証券	29,977	68,356	18,006	9,678	-	31,718	90,437	248,175
うち外国債券	28,802	64,138	18,006	9,678	-	31,718	2	152,346
外国株式	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	367,923	560,318	687,229	389,118	216,734	31,718	662,777	2,915,820
	平成28年9月30日							
	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
国債	102,113	232,706	268,362	190,058	84,457	20,699	-	898,398
地方債	13,918	60,389	112,632	70,946	116,471	-	-	374,358
短期社債	-	-	-	-	-	-	-	-
社債	154,807	249,149	236,344	59,079	58,353	1,406	-	759,141
株式	-	-	-	-	-	-	605,483	605,483
その他の証券	15,041	24,413	20,362	2,108	53,592	33,263	71,074	219,855
うち外国債券	15,029	21,731	20,362	2,108	53,592	33,263	1	146,088
外国株式	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	285,881	566,659	637,702	322,192	312,874	55,369	676,557	2,857,237

●商品有価証券売買高

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期
商品国債	4,377	2,505
商品地方債	895	672
商品政府保証債	-	-
その他の商品有価証券	-	-
合 計	5,272	3,178

●商品有価証券平均残高

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期	平成28年9月中間期
商品国債	87	64
商品地方債	214	253
商品政府保証債	-	-
その他の商品有価証券	-	-
合 計	301	318

●公共債引受額、公共債および証券投資信託の窓口販売額

(単位：百万円)

	平成27年9月中間期		平成28年9月中間期	
	引受額	窓口販売額	引受額	窓口販売額
国債	-	3,976	-	2,567
地方債	10,330	6,663	9,500	675
政府保証債	2,220	-	1,012	-
合 計	12,550	10,640	10,512	3,243
証券投資信託	-	40,121	-	19,047

●有価証券の預金に対する比率

(単位：百万円)

	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
有価証券 (A)	2,763,473	152,346	2,915,820	2,711,148	146,088	2,857,237
預 金 (B)	7,074,825	161,234	7,236,060	7,165,475	176,469	7,341,944
預証率 (A)／(B)	39.06%	94.48%	40.29%	37.83%	82.78%	38.91%
期中平均	35.52%	101.56%	37.02%	32.76%	88.41%	34.08%

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

有価証券関係情報

●有価証券関係

●満期保有目的の債券

該当ありません。

●子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
	中間貸借対照表計上額	時価	差額	中間貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	-	-	-	-	-	-
関連会社株式	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の中間貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
子会社株式	2,619	2,619
関連会社株式	-	103
合計	2,619	2,723

※これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

●その他の有価証券

(単位：百万円)

		平成27年9月30日			平成28年9月30日		
		中間貸借対照表計上額	取得原価	差額	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	559,991	167,539	392,452	583,221	157,701	425,520
	債券	2,056,300	2,021,805	34,495	1,957,393	1,912,773	44,619
	国債	974,424	953,766	20,657	877,698	851,074	26,624
	地方債	356,481	348,838	7,643	352,776	342,760	10,015
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社債	725,394	719,200	6,193	726,918	718,938	7,979
	その他	199,418	186,806	12,612	175,293	168,905	6,387
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	外国債券	132,177	130,614	1,563	125,349	123,419	1,930
	その他	67,241	56,192	11,049	49,944	45,486	4,457
	小計	2,815,711	2,376,150	439,560	2,715,909	2,239,381	476,527
	株式	6,992	7,741	△ 748	16,709	19,007	△ 2,297
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	債券	39,005	39,081	△ 76	74,504	75,030	△ 526
	国債	-	-	-	20,699	21,035	△ 336
	地方債	118	118	△ 0	21,582	21,649	△ 67
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社債	38,886	38,963	△ 76	32,222	32,345	△ 122
	その他	47,791	49,405	△ 1,614	42,830	43,316	△ 486
	外国債券	20,166	20,214	△ 47	20,737	20,843	△ 105
その他	27,624	29,191	△ 1,566	22,092	22,472	△ 380	
小計	93,788	96,228	△ 2,440	134,043	137,354	△ 3,310	
合計	2,909,500	2,472,379	437,120	2,849,952	2,376,735	473,217	

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他の有価証券

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
	中間貸借対照表計上額	中間貸借対照表計上額
株式	2,735	2,829
その他	965	1,732
合計	3,700	4,561

※これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他の有価証券」には含めておりません。

当中間期において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

●減損処理を行った有価証券

(平成27年9月中間期)

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間期の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当中間期における減損処理額は、141百万円(うち、株式141百万円、社債0百万円)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に以下のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べ下落
要注意先	時価が取得原価に比べ30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べ50%以上下落又は、時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落したもので市場価格が一定水準以下で推移している場合等

なお、破綻先とは、破産、特別清算、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは、実質的に経営破綻に陥っている発行会社であります。破綻懸念先とは、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは、今後の管理に注意を要する発行会社であります。正常先とは、上記破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、及び要注意先以外の発行会社であります。

(平成28年9月中間期)

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間期の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当中間期における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に以下のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べ下落
要注意先	時価が取得原価に比べ30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べ50%以上下落又は、時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落したもので市場価格が一定水準以下で推移している場合等

なお、破綻先とは、破産、特別清算、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは、実質的に経営破綻に陥っている発行会社であります。破綻懸念先とは、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは、今後の管理に注意を要する発行会社であります。正常先とは、上記破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、及び要注意先以外の発行会社であります。

●金銭の信託関係

●満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

●その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

該当ありません。

●その他有価証券評価差額金

中間貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
評価差額	437,120	473,217
その他有価証券	437,120	473,217
その他の金銭の信託	-	-
(△)繰延税金負債	△ 138,535	△ 142,938
その他有価証券評価差額金	298,584	330,278

デリバティブ取引情報

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

●金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種 類		平成27年9月30日			平成28年9月30日				
			契約額等		時価	評価損益	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超				うち1年超			
金融商品取引所	金利先物	売建	-	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	-	
	金利オプション	売建	-	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	-	
金利先渡契約	売建	-	-	-	-	-	-	-		
	買建	-	-	-	-	-	-	-		
店頭	金利スワップ	受取固定・支払変動	92,859	86,084	1,549	1,549	81,099	75,202	1,959	1,959
		受取変動・支払固定	92,859	86,084	△ 500	△ 500	81,099	75,202	△ 1,113	△ 1,113
		受取変動・支払変動	-	-	-	-	-	-	-	-
	金利オプション	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
		買建	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	売建	70	70	△ 0	11	47	47	-	11
買建		70	70	0	△ 7	47	47	-	△ 7	
合 計				1,048	1,053			845	850	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

●通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種 類		平成27年9月30日			平成28年9月30日				
			契約額等		時価	評価損益	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超				うち1年超			
金融商品取引所	通貨先物	売建	-	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	-	
	通貨オプション	売建	-	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	-	
店頭	通貨スワップ		-	-	-	-	-	-	-	
	為替予約	売建	39,971	4,619	△ 1,258	△ 1,258	33,468	2,504	484	484
		買建	55,794	4,191	1,200	1,200	53,928	2,393	△ 177	△ 177
	通貨オプション	売建	23,648	7,924	△ 617	183	25,355	5,514	△ 680	△ 97
		買建	23,648	7,924	617	△ 12	25,355	5,514	680	232
	その他	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
買建		-	-	-	-	-	-	-	-	
合 計				△ 57	113			307	442	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

●株式関連取引
該当ありません。

●債券関連取引
該当ありません。

●商品関連取引
該当ありません。

●クレジット・デリバティブ取引
該当ありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

●金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類		主なヘッジ対象	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
				契約額等		時価	契約額等		時価
				うち1年超			うち1年超		
原則的処理方法	金利スワップ	受取固定・支払変動	貸出金、 其他有価証券(債券)、 預金等の有利息の 金融資産・負債	-	-	-	-	-	-
		受取変動・支払固定		80,212	79,871	△ 3,182	78,807	78,684	△ 3,459
	金利先物	-		-	-	-	-	-	
	金利オプション	-		-	-	-	-	-	
	その他	-		-	-	-	-	-	
金利スワップの特例処理	金利スワップ	受取固定・支払変動	-	-	-	-	-	-	
		受取変動・支払固定	-	-	-	-	-	-	
合計					△ 3,182			△ 3,459	

(注) 1. ヘッジ対象とヘッジ手段を紐付けする方法のほか、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジ(キャッシュ・フローを固定するヘッジ)によっております。
2. 時価の算定
取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定してあります。

●通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類		主なヘッジ対象	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
				契約額等		時価	契約額等		時価
				うち1年超			うち1年超		
原則的処理方法	通貨スワップ		外貨建の 有価証券等	35,988	-	△ 1,303	21,357	-	2,717
	為替予約			-	-	-	-	-	-
	その他			-	-	-	-	-	-
為替予約等の 振当処理	通貨スワップ		-	-	-	-	-	-	
	為替予約		-	-	-	-	-	-	
合計					△ 1,303			2,717	

(注) 1. 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2. 時価の算定
割引現在価値等により算定してあります。

●株式関連取引

該当ありません。

●債券関連取引

該当ありません。

国際業務

●外貨建資産

(単位：百万米ドル)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
外貨建資産	1,960	2,325

その他

●自動機器設置状況

(単位：台)

	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
	店舗内	店舗外	合計	店舗内	店舗外	合計
現金自動預入支払機(ATM)	622	404	1,026	620	408	1,028
セブン銀行との提携による共同ATM	-	21,779	21,779	-	23,029	23,029

(注) 現金自動支払機(CD)は設置していません。

株式・資本の状況

●資本金の推移

(単位：百万円)

	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	平成28年4月1日～ 平成28年9月30日
資本金増減額	-	-	-	-	-
資本金残高	42,103	42,103	42,103	42,103	42,103

●大株主の状況

(平成28年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	15,169千株	4.00%
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	13,393	3.53
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	12,501	3.29
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	12,024	3.17
京セラ株式会社	京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地	7,980	2.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・オムロン株式会社口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	7,640	2.01
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	7,514	1.98
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	7,136	1.88
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地7丁目18番24号	6,590	1.73
京都銀行従業員持株会	京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地	6,406	1.68
計		96,355	25.41

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

中小企業の経営支援に関する取組方針・態勢整備

●地域貢献に関する考え方

京都銀行では、創業以来「地域社会の繁栄に奉仕する」を経営理念として掲げ、地域の産業育成や環境問題への取組み等さまざまな形で地域貢献の役割を担ってまいりました。

金融情勢や社会環境の変化によりお客さまのニーズはますます多様化しておりますが、地域金融機関における本来の役割は、本業である銀行業務を通じて地域経済・社会の発展に貢献していくことであるとの認識のもと、地域とともに持続的な発展を目指してまいりたいと考えております。

また、地域の皆さまからのご理解と信頼を得られますよう、当行の取組みについて情報を開示してまいります。

※地域の定義 京都銀行は、本店を置く京都府とそれに隣接する滋賀県、大阪府、奈良県、兵庫県の二府三県を地域と定義し、地域に密着した営業を展開しております。

●「地域密着型金融」の取組方針

●地域密着型金融の基本方針ならびに中期経営計画における位置付け

当行は、地域密着型金融の基本方針を「積極的なコンサルティング機能の発揮により、中小企業者の経営安定・成長発展を支援し、地域経済の活性化に貢献する」と定め、積極的に地域密着型金融の推進をはかってまいりました。

第5次中期経営計画「ビジョン75 いい銀行づくり」(平成26年度～28年度)においては、企業の成長を促すコンサルティング機能の強化や地域経済の活性化支援等に取組むことにより「地域密着型金融の深化」をはかっております。

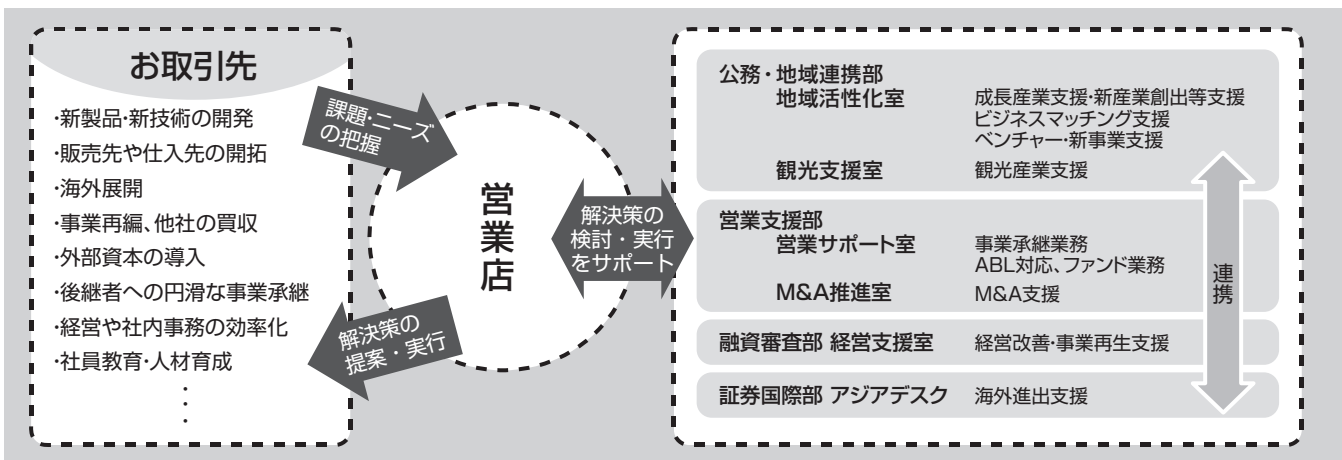
●取組態勢

地域活性化・地方創生に関する専担部署「公務・地域連携部」をおき、地方公共団体ならびに地域におけるさまざまな関係団体等との連携を推進しております。

あわせて、営業店と本部各々が連携してコンサルティング機能を発揮し、地域の中小企業等に対する成長支援など、地域密着型金融全体につながる取組みを積極的に展開し、地域活性化を推進してまいります。

また、営業支援部に、法人・個人事業主向けの各種商品やグループ会社取引等を推進する「営業サポート室」をおき、事業性の取引を一体的に推進する体制を整えております。

加えて、経営基盤・営業エリアが異なる地方銀行(当行を含む9行)が連携・協力する「地域再生・活性化ネットワーク」を活用し、従来単一の銀行ではできなかった、より付加価値の高いサービスの提供も行っております。



●金融円滑化への取組みについて

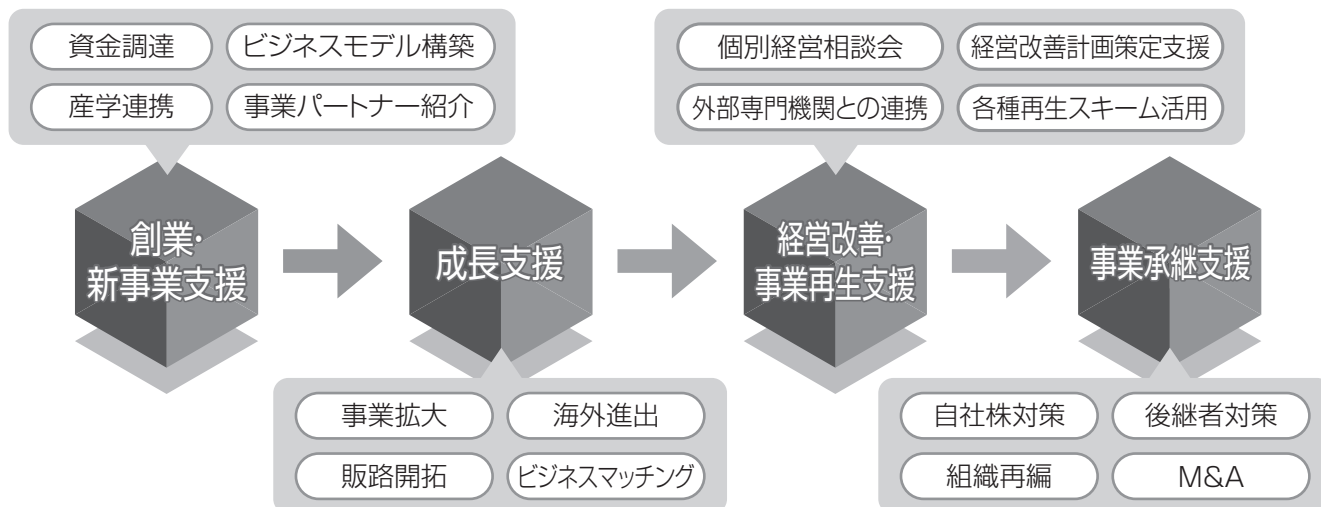
当行では、「金融円滑化管理に関する方針」(※)を定め、全行をあげ金融の円滑化を推進しております。

これからも地域金融機関として、適切かつ積極的な金融仲介機能を発揮し、お客さまへの円滑な資金供給や資金繰りに関するご相談ならびに返済計画見直し等のご相談について、公正、迅速、丁寧な対応に努めてまいります。(※)当行ホームページで公表しております。

中小企業の経営支援に関する取組状況

●ライフステージに応じた経営支援の取組み

当行では、「地域密着型金融の取組方針」および「金融円滑化管理に関する方針」に基づき、お取引先のライフステージに応じたきめ細やかなサポートの実施や金融の円滑化を通じて、お取引先の経営安定・成長発展を支援しております。



●創業・新規事業開拓の支援

創業企業やベンチャー企業、新しい事業分野への進出を検討されているお取引先の課題・ニーズに対し、「京銀活き活きベンチャー支援ネットワーク」に参画いただいている支援機関や大学等と連携して、ビジネスマッチングや各種情報の提供、専門家(機関)や大学の紹介等の支援を行っているほか、イベントの開催や公的補助金の申請サポートにも取り組んでおります。

また、当行営業エリア内の将来成長が期待できる企業や事業承継ニーズを有する企業等への投資を目的として平成28年2月に設立した「京銀輝く未来応援ファンド」では、平成28年6月に第1号案件、10月に第2号案件、11月に第3号案件に投資を行い、幅広いステージの企業を積極的に支援しております。

【取組実績】

項目	平成28年度上期実績
創業・新事業支援件数	213件
創業・新事業支援 関連融資実行	45件/1,870百万円

【補助金申請サポート実績(平成28年度上期)】

補助金名	概要	当行関与件数
ものづくり・商業・サービス 新展開支援補助金	革新的なサービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための設備投資等の経費の一部を補助する制度	158件 (平成27年度補正予算分)

【創業・新事業支援を目的としたイベント開催実績(平成28年度上期)】

開催時期	イベント名	参加者数
平成28年4月	創業を考えるin京都市	38名
平成28年5月	第4期スタートアップ・サポートゼミナール	4名
平成28年7月	～京都大学と連携しませんか～ものづくり企業のための新規事業展開セミナー	73名

●成長段階における支援

平成12年に草津支店開設以降、広域型地方銀行として、店舗ネットワークの充実に注力しており、平成28年7月開設の刈谷支店、同年11月開設の北野田支店・鳳支店をもって、7都府県・172か店体制となりました。

当行は、広域かつ地域に密着した店舗ネットワークを活かした個別ビジネスマッチングや、商談会の開催等によるお取引先の販路拡大のサポートに取り組んでおります。

取組の一例としては、お客さまのニーズに合わせ、京都の半導体・電機メーカーと愛知の自動車メーカーのお引合せのような、地域を越えたマッチングもごさいます。

また、当行では、アジアデスクや香港・上海・大連・バンコクの駐在員事務所による個社別サポートや、アジアデスクセミナー・海外商談会を開催し、海外展開における様々なビジネス機会をご提供させていただいております。

平成28年9月、メキシコ合衆国のグアナフアト州、ヌエボ・レオン州およびメキシコ大手金融機関「Banamex」と業務提携を行いました。これにより広範なメキシコの経済・投資環境情報の提供や現地金融サービスの提供等が可能となりました。

【取組実績】

項目	平成28年度上期
ビジネスマッチング商談件数	1,267件
動産・債権譲渡担保融資 件数および残高 (平成28年9月末)	40件/6,243百万円
海外事業サポート件数	1,420件

【海外現地法人向け融資実績(平成28年度上期)】

項目	融資先	通貨	件数
クロスボーダー ローン	中国向け	米ドル建て	1件
	タイ向け	バーツ建て	2件
	香港向け	米ドル建て	2件
	メキシコ向け	円建て	1件
	アメリカ向け	米ドル建て	1件
	マレーシア向け	米ドル建て	1件
スタンドバイ L/C	中国向け	人民元建て	1件
	中国向け	米ドル建て	2件
	台湾向け	米ドル建て	1件

【商談会開催実績(平成28年度上期)】

開催実績	商談会名	参加社数
平成28年6月	Mfair バンコク2016ものづくり商談会	13社
平成28年8月	第18回京銀ビジネス商談会	6社
平成28年9月	南の逸品商談会in Tokyo 2016	6社
平成28年9月	FBC上海2016ものづくり商談会	41社

【成長支援を目的としたイベント開催実績(平成28年度上期)】

開催実績	イベント名	参加者(社)数
平成28年6月	2016大連・地方銀行合同企業交流会	15社
平成28年6月	第8回香港・華南地区日系企業ビジネス交流会	23社
平成28年7月	経営者として「いつでも備えは万全」にするための消費税セミナー	5名
平成28年7月	京セラ アメーバ経営セミナー	93名
平成28年7月	地方創生 商談力向上セミナー2016	11名
平成28年7月	中国主要都市ビジネスセミナー(青島・大連・上海で開催)	合計41名
平成28年7月	アジアデスクセミナー「インバウンドビジネス編」	46名
平成28年9月	地方創生 商談力スキルアップセミナー	20名
平成28年9月	ベトナム ビジネスセミナー&交流会	24社

●経営改善・事業再生・業種転換等の支援

●支援態勢

経営改善・事業再生が必要なお取引先に対し、リレーションシップの強化をはかりながら、お取引先と経営課題の認識共有を行い、経営改善に向けて取組んでおります。

特に、経営改善・事業再生支援の専担部署である融資審査部「経営支援室」においては、相談会やセミナーの開催のほか、中小企業再生支援協議会や外部コンサルティング会社等とも緊密に連携し、営業店と一体となってお取引先に対する支援に取り組んでおります。

●地域の再生支援ネットワーク

当行では、従来より「京都再生ネットワーク会議」や「滋賀県再生支援連絡会議」、「北近畿中小企業支援連絡会議」など、地域の再生支援ネットワークを通じたお取引先の再生支援に取り組んでおります。

●中小企業再生支援融資制度の活用

合理的で実現可能性が高い経営改善計画を策定したお取引先に対し、京都府・京都市協調の制度融資である「中小企業再生支援融資制度」を積極的に活用して資金繰りの安定化をはかり、お取引先の経営改善・事業再生を支援しております。

【経営改善・事業再生支援への取組実績】

項目	平成28年度上期
経営支援対象先に対する経営改善計画策定状況	89.5%(*)
中小企業再生支援協議会の活用件数	相談持込 3件 計画策定完了 7件
中小企業再生支援融資制度の実行	9件/1,315百万円

(*)策定先324企業グループ / 経営支援対象先数362企業グループ

【「認定支援機関による経営改善計画策定支援」を活用した計画策定サポート(平成28年度上期)】

施策名	概要	申請件数(当行関与件数)
経営改善計画策定支援事業	「認定支援機関」が中小企業・小規模事業者の依頼を受けて経営改善計画などの策定を支援	17先

【相談会・セミナー開催実績(平成28年度上期)】

イベント名	開催時期	概要	参加社数
個別経営相談会	平成28年4月～7月 (計9回)	コンサルティング会社を活用し、経営力強化を目的とした個社別の相談会	合計13社
経営計画策定セミナー「基本編」	平成28年5月・7月 (計2回)	経営改善計画の意義の理解や策定に向けた経営者の意識改革を目的としたセミナー	合計6社
経営計画策定セミナー「実践編」	平成28年6月・8月 (計2回)	具体的な経営改善計画の策定を目的としたセミナー	合計5社

●事業承継の支援

事業承継問題を抱えておられるお取引先に対するサポートとして、自社株対策や事業承継に関する初期的なアドバイス、税理士等の専門家と連携した最適な事業承継スキーム、課題解決策の検討を行っております。

また、後継者不足、業界の再編等により事業存続の悩みをお持ちのお取引先に対して、M&Aによる課題解決のサポートも行っております。取組みに際しては、近畿2府3県、東京、愛知の広域な店舗網を活用した独自の情報提供に加え、広域的な地方銀行間の情報交換の枠組みである、「地域再生・活性化ネットワーク」をはじめとする、多数の提携先と連携したサポートを実施しております。これにより、当行単独での取組みより、多くの情報のご提供ができ、お取引先のニーズに、より合致するご提案が可能となっております。

【取組実績】

項目	平成28年度上期実績
事業承継相談受付件数	113件
M&A成約件数	6件

地域の活性化に関する取組状況

【地域活性化への取組み】

地域金融機関である当行にとって地域経済の活性化は極めて重要な使命であると認識しております。

地域の観光産業や成長産業に対する支援強化、行政施策との連携により、積極的に地域活性化につながる取組みを展開しております。

●観光産業に対する取組み

●古都京都の魅力を活かした取組み

京都が世界に誇る観光資源である、古都京都の美しい街並み。その街並みを代表する京町家の再生・活用を通じて、京都らしいまちづくりの支援に取り組んでおります。

平成28年11月に公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターと共催で、京町家を保有されている方、京町家を活用した新たな事業を検討されている方などを対象に「京町家利活用クラウドファンディングセミナー」を開催いたしました。本セミナーでは、京町家の改修・活用を行う事業に対し、資金面での支援を行う「京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業」の説明や、クラウドファンディングを利用された事業者さまが自らの活用事例の説明等を行いました。

●「もうひとつの京都」との連携

当行は、京都府の「もうひとつの京都、行こう。」キャンペーンと連携した取組みを展開しております。

昨年開催の京都府北部エリアでの「『海の京都』インバウンドセミナー」に続き、京都府南部エリアで「『お茶の京都』インバウンド対策セミナー」を平成28年6月に開催しました。本セミナーでは、観光客誘致に役立つ情報などを提供するとともに、インバウンド消費の拡大に役立つキャッシュレス決済システムについて実演を交えて説明いたしました。

●多言語音声翻訳システムの導入 ～金融機関初～

平成28年7月に金融機関で初めて、国立研究開発法人情報通信研究機構の協力を得て、多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra (ボイストラ)」を搭載したタブレット端末を、京都市内17か店に設置しました。

今後も、おもてなし力の向上に努め、外国人観光客の誘致による地域活性化の支援に取り組んでまいります。

●地域の成長産業に対する支援強化

地域の活性化に資する成長産業を支援するため、次のような取組みを行っております。

農業分野での取組み	ファンド出資による 農林漁業の成長支援	京都エリアを中心とした農林漁業の6次産業化に取り組む事業者への出資や経営支援等の総合的なサポートを行う「きょうと農林漁業成長支援ファンド」を組成しております。 平成28年3月に第1号案件、8月に第2号案件に投資を行っております。
医療・福祉分野での 取組み	「業種別専門営業部」に 医療・福祉チームを設置	専門知識と目利き能力を備えた担当者を配し、医院の開業支援などに積極的に取り組んでおります。
	「介護ビジネス経営塾」の 開催	介護事業に新たに参入される方などを対象として、今後の経営に役立てていただくため、セミナーを開催しております。
	医師等を対象とした 融資商品の取扱い	京都府・滋賀県・兵庫県・大阪府・奈良県の各保険医協会等との提携融資や、医師や歯科医師等を対象とした団体信用生命保険付きの融資商品「京銀開業医向けローン〈医力満点〉」などを取扱っております。

【「地方創生」の取組み】

当行は「地方創生」の取組みとして、平成26年に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」および「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地方公共団体が「地方版総合戦略」の推進を行うにあたり、地域金融機関として積極的に連携するとともに、一層の体制強化をはかっております。

●地方公共団体、学校法人との連携

当行エリア内の地方公共団体や教育機関との連携協定の締結をはじめ、幅広い分野での連携を深めることにより「地方創生」をより一層推進しております。

【連携協定】

協定締結月	締結先	協定名
平成28年 7月	京都府公立大学法人 京都府立医科大学 京都府立大学	「地域にもっとも近い「学」×「金」の地域創生に向けた協定」
平成28年 9月	宇治市	「地方創生に関する包括連携協定」
平成28年 9月	滋賀大学	「地方創生に関する包括的連携協定」
平成28年10月	京田辺市	「地方創生に関する包括連携協定」
平成28年10月	交野市	「包括連携に関する協定」

【セミナー開催実績】

開催月	セミナー名	開催内容
平成28年8月	地方創生セミナー2016	民間の資金・技術や経営ノウハウを活用するPPP/PFI手法について、具体的事例をはじめ、地方創生における地方公共団体と地域金融機関との連携等の今後の取組みに役立つ情報を提供。
平成28年9月	城陽市×京都銀行 包括連携協定締結記念セミナー ～観光と地域資源の再発見で進める地方創生～	特産品の「6次産業化」や地域の宝である観光資源の活用、自慢の地域産品のブランディングや販路拡大について具体的な事例を交えて説明。

●「地方創生ガイドブック」の公表

地方創生のために当行が提供する支援サービスをまとめた「地方創生ガイドブック」を作成し、ホームページにて公表しております。

●「京銀寄付型ローン～京都の地域創生を応援します～」の取扱いを開始

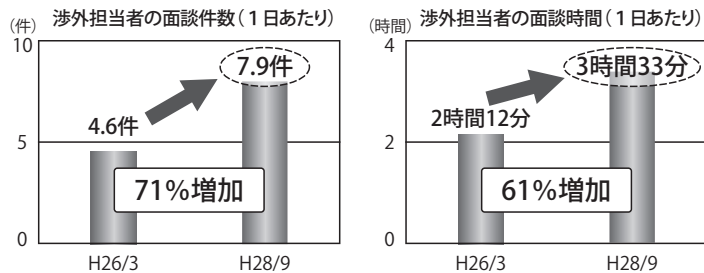
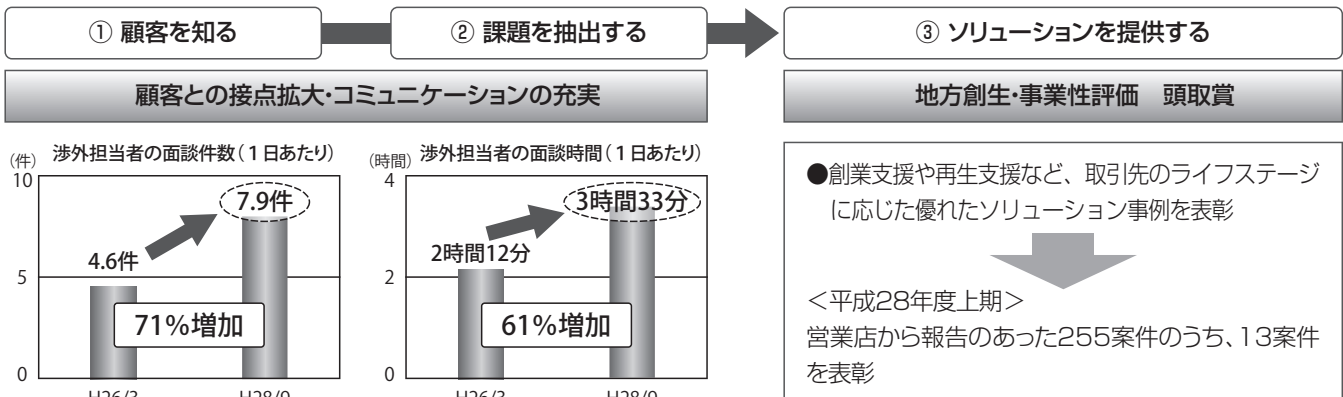
本商品は、当行がお客さまから受取る金利収入の一部を、京都府の地方創生に関わる事業へ寄付するものです。寄付を行う先はお客さまに目的別・地域別に分けたカテゴリーから選んでいただきます。

本商品を通して、当行と地域のお客さまが一体となって地域経済の活性化に貢献すると同時に、お客さまが京都府の地域創生戦略に合わせた事業を指定することで、地方創生に係る施策を広く知っていただくこともできるものとなっております。

金融仲介機能の充実に向けた活動（金融仲介機能のベンチマーク）

当行は、地域金融機関として求められる適切な金融仲介機能を発揮するために、平成28年9月に金融庁が公表した「金融仲介機能のベンチマーク」を活用し、取引先企業のニーズや課題に適切なソリューションを提供することを通じて、取引先企業の成長を支援してまいります。

事業性評価の取組み



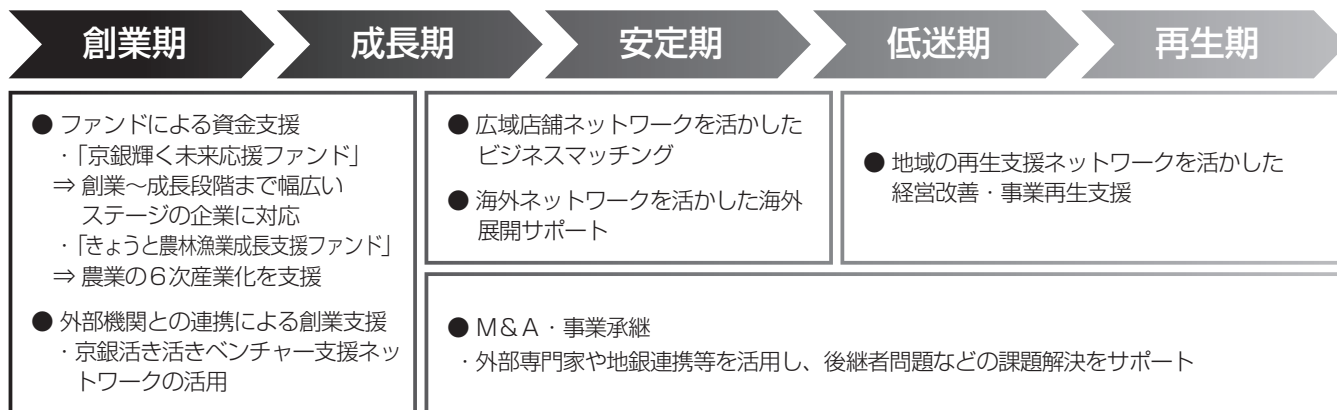
【対応するベンチマーク】（平成28年3月期）

ベンチマーク	計数		
	金融機関がメインバンクとして取引を行っている企業のうち、経営指標の改善や就業者数の増加が見られた先数、及び、同先に対する融資額の推移	メインバンク取引先数(①)	15,278先
①に対する融資残高		9,669億円	
①のうち経営指標等が改善した先数*(②)		10,302先	
②に対する融資残高の推移		平成26年3月末	7,280億円
		平成27年3月末	7,698億円
	平成28年3月末	8,025億円	

※売上高、営業利益率、労働生産性、従業員数のいずれかが増加した先

ベンチマーク	計数	
金融機関が事業性評価に基づく融資を行っている与信先数及び融資額、及び、全与信先数及び融資額に占める割合	与信先数 (全与信先に占める割合)	1,015先 (2.9%)
	融資残高 (全融資残高に占める割合)	1,839億円 (6.7%)

ライフステージに応じたソリューション提供



【対応するベンチマーク】(平成28年3月期)

ベンチマーク	計数						
	全与信先	創業期	成長期	安定期	低迷期	再生期	
ライフステージ別の与信先数、及び、融資額	与信先数	35,263先	1,244先	1,684先	17,617先	611先	4,574先
	融資残高	27,536億円	671億円	1,919億円	19,378億円	904億円	2,811億円

ベンチマーク	計数
金融機関が関与した創業、第二創業の件数	1,355件

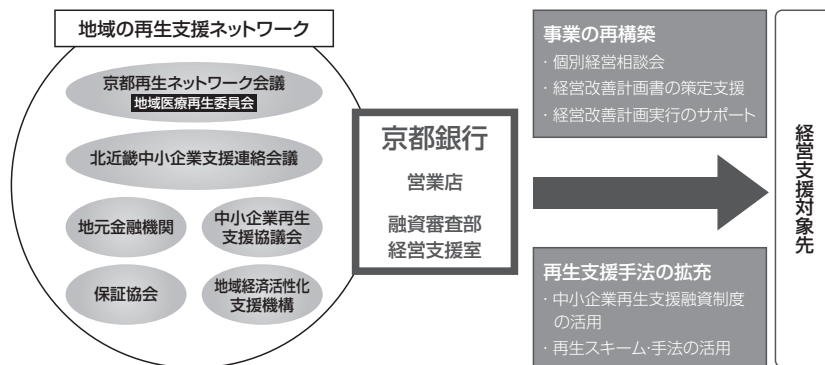
事業再生等への支援

■ 経営改善・事業再生支援への取り組み

- 地域の再生支援ネットワークを活かした経営改善・事業再生支援
- 中小企業再生支援融資制度の活用

■ 金融円滑化への取り組み

■ 「経営者保証に関するガイドライン」への取り組み



【対応するベンチマーク】(平成28年3月期)

ベンチマーク	計数			
金融機関が貸付条件の変更を行っている中小企業の経営改善計画の進捗状況	貸付条件の変更を行っている中小企業先数	4,491先 [※]		
	経営改善計画の進捗状況	好調先	順調先	不調先
		16先	138先	1,106先

※うち、経営改善計画のない先3,231先

自己資本の充実の状況

本項において、「自己資本比率告示」とは平成18年金融庁告示第19号を指しております。

〈自己資本の構成に関する開示事項〉

●連結自己資本比率

(単位：百万円)

項目	平成27年9月期		平成28年9月期	
		経過措置による不算入額		経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	371,075		384,715	
うち、資本金及び資本剰余金の額	72,405		72,405	
うち、利益剰余金の額	302,054		315,644	
うち、自己株式の額(△)	1,116		1,065	
うち、社外流出予定額(△)	2,267		2,268	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	△ 32		△ 2,074	
うち、為替換算調整勘定	-		-	
うち、退職給付に係るものの額	△ 32		△ 2,074	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	464		517	
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	-		-	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	111		111	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	111		111	
うち、適格引当金コア資本算入額	-		-	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	32,000		29,000	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	△ 53		0	
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	6,513		6,470	
コア資本に係る基礎項目の額	(イ) 410,078		418,741	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	372	1,489	753	1,130
うち、のれんに係るもの(のれん相当差額を含む。)の額	-	-	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	372	1,489	753	1,130
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	-	-	-	-
適格引当金不足額	14,958		13,635	
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-	-	-
退職給付に係る資産の額	-	-	-	-
自己保有普通株式等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	3	12	3	5
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	-	-
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	-	-	-	-
特定項目に係る十パーセント基準超過額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	-
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	-
コア資本に係る調整項目の額	(ロ) 15,333		14,392	
自己資本				
自己資本の額(イ) - (ロ)	(ハ) 394,744		404,348	
リスク・アセット等				
信用リスク・アセットの額の合計額	2,902,936		3,025,178	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 15,622		△ 6,836	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	1,489		1,130	
うち、繰延税金資産	-		-	
うち、退職給付に係る資産	-		-	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 17,117		△ 7,983	
うち、上記以外に該当するものの額	5		16	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	154,720		154,667	
信用リスク・アセット調整額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-		-	
リスク・アセット等の額の合計額	(ニ) 3,057,656		3,179,846	
連結自己資本比率				
連結自己資本比率(ハ) / (ニ)	12.91%		12.71%	

(注) 海外営業拠点を有さないため、自己資本比率は国内基準が適用されます。

●単体自己資本比率

(単位：百万円)

項目	平成27年9月期		平成28年9月期	
		経過措置による不算入額		経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	363,832		376,524	
うち、資本金及び資本剰余金の額	72,405		72,405	
うち、利益剰余金の額	294,811		307,452	
うち、自己株式の額 (△)	1,116		1,065	
うち、社外流出予定額 (△)	2,267		2,268	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	464		517	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	9		21	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	9		21	
うち、適格引当金コア資本算入額	-		-	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	32,000		29,000	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	△ 53		0	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	396,253		406,063	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	364	1,456	739	1,109
うち、のれんに係るものの額	-	-	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	364	1,456	739	1,109
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	-	-	-	-
適格引当金不足額	18,526		16,716	
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-	-	-
前払年金費用の額	-	-	-	-
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	3	12	3	5
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	-	-
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	-	-	-	-
特定項目に係る十パーセント基準超過額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	-	-	-	-
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	-	-	-	-
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	18,893		17,459	
自己資本				
自己資本の額 (イ) - (ロ)	(ハ)	377,359	388,603	
リスク・アセット等				
信用リスク・アセットの額の合計額	2,896,402		3,006,822	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 15,656		△ 6,856	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	1,456		1,109	
うち、繰延税金資産	-		-	
うち、前払年金費用	-		-	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 17,117		△ 7,983	
うち、上記以外に該当するものの額	4		16	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	147,939		147,946	
信用リスク・アセット調整額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-		-	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	3,044,342		3,154,768	
自己資本比率				
自己資本比率 (ハ) / (ニ)		12.39%	12.31%	

(注) 海外営業拠点を有さないため、自己資本比率は国内基準が適用されます。

〈定量的な開示事項〉

自己資本の充実度

- その他金融機関等であって銀行の子法人等であるもののうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額該当ありません。

●リスク・アセットの額及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

	連結			
	平成27年9月期		平成28年9月期	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
信用リスク (A)	2,902,936	275,967	3,025,178	281,090
標準的手法が適用されるエクスポージャー	22,832	1,826	26,629	2,130
内部格付手法適用会社	2,303	184	5,825	466
標準的手法適用会社	20,528	1,642	20,803	1,664
内部格付手法が適用されるエクスポージャー	2,871,182	273,427	2,990,008	278,276
事業法人向け	824,172	76,044	914,868	82,001
特定貸付債権	9,289	845	11,684	1,035
中堅中小企業向け	564,196	65,348	579,045	64,453
ソブリン向け	153,707	12,427	149,673	12,095
金融機関等向け	164,854	13,365	188,418	15,242
居住用不動産向け	505,163	51,842	486,614	49,150
適格リボルビング型リテール向け	14,786	1,645	13,263	1,477
その他リテール（事業性）向け	14,512	1,807	15,549	1,944
その他リテール（消費性）向け	4,743	556	5,564	595
株式等	342,411	27,392	373,078	29,846
うちマーケット・ベース方式（簡易手法）	125,302	10,024	153,024	12,241
うちPD/LGD方式	217,109	17,368	220,053	17,604
みなし計算	114,517	9,403	98,258	8,086
証券化	316	25	196	15
購入債権	16,404	1,352	10,953	905
その他資産等	142,106	11,368	142,838	11,427
CVAリスク相当額を8%で除した額	7,182	574	7,188	575
中央清算機関関連	211	16	206	16
経過措置によりリスク・アセットに算入した額	1,527	122	1,145	91
(みなし計算・株式等を除く合計)	2,446,007	239,171	2,553,842	243,157
オペレーショナル・リスク (B)	154,720	12,377	154,667	12,373
粗利益配分手法	154,720	12,377	154,667	12,373
合計 (C) = (A) + (B)	3,057,656	288,345	3,179,846	293,463

- (注) 1. 信用リスク・アセットの額は担保・保証等の信用リスク削減効果を勘案した後の金額で、個別引当金等の適格引当金は勘案しておりません。
 なお、自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを考慮しております。
 2. 標準的手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額はリスク・アセットの額×8%で算出してあります。
 3. 内部格付手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額はリスク・アセットの額×8%+期待損失額で算出してあります。
 4. 経過措置によりリスク・アセットに算入した額は、自己資本比率告示附則第8条第2項の定めによりリスク・アセットを算出した額であります。
 5. マーケット・リスク相当額にかかる額を算入しておりません。
 6. オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額はオペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額×8%で算出してあります。

(単位：百万円)

	単体			
	平成27年9月期		平成28年9月期	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
信用リスク (A)	2,896,402	275,115	3,006,822	279,284
標準的手法が適用されるエクスポージャー	2,246	179	5,765	461
銀行資産	2,246	179	5,765	461
内部格付手法が適用されるエクスポージャー	2,885,268	274,225	2,992,536	278,141
事業法人向け	824,172	76,044	914,868	82,001
特定貸付債権	9,289	845	11,684	1,035
中堅中小企業向け	576,614	66,459	588,983	65,300
ソブリン向け	153,707	12,427	149,673	12,095
金融機関等向け	164,854	13,365	188,418	15,242
居住用不動産向け	503,649	51,284	485,182	48,645
適格リボルビング型リテール向け	14,786	1,645	13,263	1,477
その他リテール(事業性)向け	14,512	1,807	15,549	1,944
その他リテール(消費性)向け	4,710	544	5,563	595
株式等	349,287	27,943	376,099	30,087
うちマーケット・ベース方式(簡易手法)	121,979	9,758	149,593	11,967
うちPD/LGD方式	227,307	18,184	226,505	18,120
みなし計算	114,514	9,403	98,254	8,085
証券化	316	25	196	15
購入債権	16,404	1,352	10,953	905
その他資産等	138,447	11,075	133,842	10,707
CVAリスク相当額を8%で除した額	7,182	574	7,188	575
中央清算機関関連	211	16	206	16
経過措置によりリスク・アセットに算入した額	1,494	119	1,125	90
(みなし計算・株式等を除く合計)	2,432,600	237,769	2,532,467	241,110
オペレーショナル・リスク (B)	147,939	11,835	147,946	11,835
粗利益配分手法	147,939	11,835	147,946	11,835
合計 (C) = (A) + (B)	3,044,342	286,951	3,154,768	291,119

- (注) 1. 信用リスク・アセットの額は担保・保証等の信用リスク削減効果を勘案した後の金額で、個別引当金等の適格引当金は勘案しておりません。
 なお、自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを考慮しております。
 2. 標準的手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額はリスク・アセットの額×8%で算出しております。
 3. 内部格付手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額はリスク・アセットの額×8%+期待損失額で算出しております。
 4. 経過措置によりリスク・アセットに算入した額は、自己資本比率告示附則第8条第2項の定めによりリスク・アセットを算出した額であります。
 5. マーケット・リスク相当額にかかる額を算入しておりません。
 6. オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額はオペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額×8%で算出しております。

●総所要自己資本額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成27年9月期	平成28年9月期	平成27年9月期	平成28年9月期
総所要自己資本額	122,306	127,193	121,773	126,190

(注) 総所要自己資本額はリスク・アセットの額×4%で算出しております。

信用リスク

(信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く)

●信用リスクに関するエクスポージャー及び三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高 (種類別、地域別、業種別、残存期間別)

(単位：百万円)

	連結					
	平成27年9月期					
	エクスポージャーの期末残高					三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポージャー
貸出金、コミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランスエクスポージャー	債券	デリバティブ	その他			
種類別						
標準的手法が適用されるポートフォリオ	32,998	10,142	0	29	22,826	496
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	8,215,814	4,888,466	2,256,559	8,712	1,062,075	93,824
合計	8,248,812	4,898,608	2,256,559	8,742	1,084,902	94,320
地域別						
国内計	8,091,185	4,895,339	2,105,326	8,742	1,081,778	94,160
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	4,990,603	3,926,525	16,901	3,412	1,043,763	93,904
その他	3,100,582	968,813	2,088,424	5,329	38,014	255
国外計	157,627	3,269	151,233	-	3,124	160
合計	8,248,812	4,898,608	2,256,559	8,742	1,084,902	94,320
業種別						
製造業	1,001,724	839,121	17,522	1,130	143,951	17,805
農業、林業	2,465	2,465	-	-	0	458
漁業	66	66	-	-	-	19
鉱業、採石業、砂利採取業	1,686	688	-	-	998	47
建設業	129,993	128,766	924	24	278	8,848
電気・ガス・熱供給・水道業	46,991	44,158	-	278	2,554	-
情報通信業	53,470	52,621	373	34	441	1,175
運輸業、郵便業	224,282	155,127	61,967	35	7,152	2,288
卸売業、小売業	525,995	516,601	3,643	1,011	4,738	24,484
金融業、保険業	1,492,337	167,139	602,482	5,326	717,389	566
不動産業、物品賃貸業	492,316	490,724	664	154	773	8,577
各種サービス業	489,824	362,931	120,543	716	5,632	10,738
地方公共団体	706,618	353,582	353,036	-	0	-
個人	1,432,697	1,431,718	-	-	979	19,071
その他	1,648,339	352,895	1,095,401	29	200,013	238
合計	8,248,812	4,898,608	2,256,559	8,742	1,084,902	94,320
残存期間別						
1年以下	1,248,174	864,785	367,935	2,816	12,636	
1年超3年以下	1,053,572	485,062	564,862	1,867	1,779	
3年超5年以下	1,210,165	540,136	668,456	1,572	-	
5年超7年以下	754,924	381,698	372,098	1,127	-	
7年超10年以下	651,835	476,055	175,089	690	-	
10年超	2,157,171	2,088,943	67,557	667	3	
期間の定めのないもの	1,172,969	61,926	40,560	-	1,070,482	
合計	8,248,812	4,898,608	2,256,559	8,742	1,084,902	

- (注) 1. 地域別に関しては、貸出金等は勘定を有する営業店の所在地により区分しております。国内有価証券、コールローン等は「国内 その他」に計上しております。非居住者円貸出金、外国有価証券は「国外」に計上しております。
2. 業種別に関しては、国債、ファンド、現金、有形固定資産等は「その他」に計上しております。
3. 残存期間別に関しては、株式、ファンド、現金、有形固定資産等は「期間の定めのないもの」に計上しております。
4. デフォルトしたエクスポージャーには、内部格付手法を適用したエクスポージャーのうち与信先の債務区分が「要管理先」以下であるものと、標準的手法を適用したエクスポージャーのうち元本又は利息の支払が3か月以上延滞しているもの、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるものを計上しております。
5. 貸出金の残存期間別残高は、貸出金の最終期限により算出しております。
6. CVAリスクに係るエクスポージャーは含まれておりません。

(単位：百万円)

	連結					
	平成28年9月期					
	エクスポージャーの期末残高					三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポージャー
貸出金、コミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランスエクスポージャー	債券	デリバティブ	その他			
種類別						
標準的手法が適用されるポートフォリオ	36,737	9,406	0	114	27,216	454
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	8,487,946	5,314,332	2,180,855	10,360	982,397	82,077
合計	8,524,683	5,323,739	2,180,855	10,475	1,009,613	82,532
地域別						
国内計	8,369,669	5,319,669	2,037,171	10,475	1,002,354	82,389
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	5,118,079	4,183,483	18,514	4,357	911,723	82,072
その他	3,251,590	1,136,185	2,018,656	6,117	90,630	316
国外計	155,013	4,069	143,684	-	7,259	143
合計	8,524,683	5,323,739	2,180,855	10,475	1,009,613	82,532
業種別						
製造業	1,019,309	855,709	18,221	1,277	144,100	16,426
農業、林業	2,630	2,630	-	-	0	325
漁業	82	82	-	-	-	43
鉱業、採石業、砂利採取業	17,125	16,127	-	-	998	24
建設業	128,815	126,578	1,957	21	259	7,970
電気・ガス・熱供給・水道業	54,237	51,214	-	478	2,544	-
情報通信業	53,829	52,930	431	27	440	934
運輸業、郵便業	238,911	191,091	38,931	28	8,858	1,984
卸売業、小売業	538,989	527,578	5,779	1,584	4,047	20,034
金融業、保険業	1,501,926	223,189	633,819	6,019	638,897	158
不動産業、物品賃貸業	549,080	546,769	1,410	131	768	6,560
各種サービス業	469,580	383,095	80,091	771	5,622	10,760
地方公共団体	815,389	448,727	366,662	-	0	-
個人	1,489,804	1,488,975	-	-	828	17,113
その他	1,644,971	409,039	1,033,550	135	202,245	194
合計	8,524,683	5,323,739	2,180,855	10,475	1,009,613	82,532
残存期間別						
1年以下	1,243,726	886,198	285,397	5,307	66,823	
1年超3年以下	1,032,093	467,569	562,890	1,633	-	
3年超5年以下	1,272,434	653,796	617,455	1,182	-	
5年超7年以下	662,030	368,981	292,225	822	-	
7年超10年以下	871,113	619,164	251,328	619	-	
10年超	2,384,197	2,258,945	124,336	909	5	
期間の定めのないもの	1,059,089	69,082	47,221	-	942,784	
合計	8,524,683	5,323,739	2,180,855	10,475	1,009,613	

(注) 1. 地域別に関しては、貸出金等は勘定を有する営業店の所在地により区分しております。国内有価証券、コールローン等は「国内 その他」に計上しております。非居住者円貸出金、外国有価証券は「国外」に計上しております。

2. 業種別に関しては、国債、ファンド、現金、有形固定資産等は「その他」に計上しております。

3. 残存期間別に関しては、株式、ファンド、現金、有形固定資産等は「期間の定めのないもの」に計上しております。

4. デフォルトしたエクスポージャーには、内部格付手法を適用したエクスポージャーのうち与信先の債務者区分が「要管理先」以下であるものと、標準的手法を適用したエクスポージャーのうち元本又は利息の支払が3か月以上延滞しているもの、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるものを計上しております。

5. 貸出金の残存期間別残高は、貸出金の最終期限により算出しております。

6. CVAリスクに係るエクスポージャーは含まれておりません。

(単位：百万円)

種別	単体					
	平成27年9月期					
	エクスポージャーの期末残高					三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポージャー
貸出金、コミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランスエクスポージャー	債券	デリバティブ	その他			
標準的手法が適用されるポートフォリオ	12,367	9,284	-	29	3,052	-
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	8,220,522	4,897,208	2,253,158	8,712	1,061,442	92,846
合計	8,232,889	4,906,493	2,253,158	8,742	1,064,495	92,846
地域別						
国内計	8,075,262	4,903,223	2,101,924	8,742	1,061,371	92,685
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	4,978,081	3,934,410	16,901	3,412	1,023,356	92,430
その他	3,097,181	968,813	2,085,023	5,329	38,014	255
国外計	157,627	3,269	151,233	-	3,124	160
合計	8,232,889	4,906,493	2,253,158	8,742	1,064,495	92,846
業種別						
製造業	1,001,724	839,121	17,522	1,130	143,951	17,805
農業、林業	2,465	2,465	-	-	0	458
漁業	66	66	-	-	-	19
鉱業、採石業、砂利採取業	1,686	688	-	-	998	47
建設業	129,993	128,766	924	24	278	8,848
電気・ガス・熱供給・水道業	46,991	44,158	-	278	2,554	-
情報通信業	53,470	52,621	373	34	441	1,175
運輸業、郵便業	224,282	155,127	61,967	35	7,152	2,288
卸売業、小売業	525,995	516,601	3,643	1,011	4,738	24,484
金融業、保険業	1,493,238	168,039	602,482	5,326	717,389	566
不動産業、物品賃貸業	500,158	498,566	664	154	773	8,577
各種サービス業	489,824	362,931	120,543	716	5,632	10,738
地方公共団体	706,618	353,582	353,036	-	0	-
個人	1,430,862	1,430,860	-	-	1	17,674
その他	1,625,510	352,895	1,092,000	29	180,584	160
合計	8,232,889	4,906,493	2,253,158	8,742	1,064,495	92,846
残存期間別						
1年以下	1,252,349	868,960	367,935	2,816	12,636	
1年超3年以下	1,054,683	486,173	564,862	1,867	1,779	
3年超5年以下	1,213,250	543,221	668,456	1,572	-	
5年超7年以下	755,168	381,942	372,098	1,127	-	
7年超10年以下	651,962	476,182	175,089	690	-	
10年超	2,157,171	2,088,943	67,557	667	3	
期間の定めのないもの	1,148,304	61,069	37,158	-	1,050,076	
合計	8,232,889	4,906,493	2,253,158	8,742	1,064,495	

(注) 1. 地域別に関しては、貸出金等は勘定を有する営業店の所在地により区分しております。国内有価証券、コールローン等は「国内 その他」に計上しております。非居住者円貸出金、外国有価証券は「国外」に計上しております。

2. 業種別に関しては、国債、ファンド、現金、有形固定資産等は「その他」に計上しております。

3. 残存期間別に関しては、株式、ファンド、現金、有形固定資産等は「期間の定めのないもの」に計上しております。

4. デフォルトしたエクスポージャーには、内部格付手法を適用したエクスポージャーのうち与信先の債務者区分が「要管理先」以下であるものを計上しております。

5. 貸出金の残存期間別残高は、貸出金の最終期限により算出しております。

6. CVAリスクに係るエクスポージャーは含まれておりません。

(単位：百万円)

種類別	単体					
	平成28年9月期					
	エクスポージャーの期末残高					三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポージャー
貸出金、コミットメント及びデリバティブ以外のオフ・バランスエクスポージャー	債券	デリバティブ	その他			
標準的手法が適用されるポートフォリオ	15,662	8,678	-	114	6,869	-
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	8,494,155	5,323,072	2,180,855	10,360	979,866	81,249
合計	8,509,817	5,331,750	2,180,855	10,475	986,736	81,249
地域別						
国内計	8,354,804	5,327,680	2,037,171	10,475	979,476	81,105
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	5,103,213	4,191,495	18,514	4,357	888,846	80,789
その他	3,251,590	1,136,185	2,018,656	6,117	90,630	316
国外計	155,013	4,069	143,684	-	7,259	143
合計	8,509,817	5,331,750	2,180,855	10,475	986,736	81,249
業種別						
製造業	1,019,309	855,709	18,221	1,277	144,100	16,426
農業、林業	2,630	2,630	-	-	0	325
漁業	82	82	-	-	-	43
鉱業、採石業、砂利採取業	17,125	16,127	-	-	998	24
建設業	128,815	126,578	1,957	21	259	7,970
電気・ガス・熱供給・水道業	54,237	51,214	-	478	2,544	-
情報通信業	53,829	52,930	431	27	440	934
運輸業、郵便業	238,911	191,091	38,931	28	8,858	1,984
卸売業、小売業	538,989	527,578	5,779	1,584	4,047	20,034
金融業、保険業	1,502,726	223,989	633,819	6,019	638,897	158
不動産業、物品賃貸業	557,019	554,708	1,410	131	768	6,560
各種サービス業	469,580	383,095	80,091	771	5,622	10,760
地方公共団体	815,389	448,727	366,662	-	0	-
個人	1,488,248	1,488,248	-	-	-	15,881
その他	1,622,922	409,039	1,033,550	135	180,197	143
合計	8,509,817	5,331,750	2,180,855	10,475	986,736	81,249
残存期間別						
1年以下	1,248,251	890,723	285,397	5,307	66,823	
1年超3年以下	1,033,618	469,094	562,890	1,633	-	
3年超5年以下	1,274,765	656,127	617,455	1,182	-	
5年超7年以下	662,274	369,225	292,225	822	-	
7年超10年以下	871,226	619,278	251,328	619	-	
10年超	2,384,197	2,258,945	124,336	909	5	
期間の定めのないもの	1,035,484	68,354	47,221	-	919,907	
合計	8,509,817	5,331,750	2,180,855	10,475	986,736	

(注) 1. 地域別に関しては、貸出金等は勘定を有する営業店の所在地により区分しております。国内有価証券、コールローン等は「国内 その他」に計上しております。非居住者円貸出金、外国有価証券は「国外」に計上しております。

2. 業種別に関しては、国債、ファンド、現金、有形固定資産等は「その他」に計上しております。

3. 残存期間別に関しては、株式、ファンド、現金、有形固定資産等は「期間の定めのないもの」に計上しております。

4. デフォルトしたエクスポージャーには、内部格付手法を適用したエクスポージャーのうち与信先の債務者区分が「要管理先」以下であるものを計上しております。

5. 貸出金の残存期間別残高は、貸出金の最終期限により算出しております。

6. CVAリスクに係るエクスポージャーは含まれておりません。

●貸倒引当金期末残高、期中増減額

(単位：百万円)

	連結									
	平成27年9月期				平成28年9月期					
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
		目的使用	その他				目的使用	その他		
一般貸倒引当金	13,622	12,894	-	※13,622	12,894	12,486	11,563	-	※12,486	11,563
個別貸倒引当金	16,646	15,398	1,407	※15,238	15,398	14,610	13,488	1,340	※13,270	13,488
うち非居住者向け債権分	-	159	-	-	159	159	143	-	※159	143
特定海外債権引当金勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	30,268				28,293	27,096				25,052

	単体									
	平成27年9月期				平成28年9月期					
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
		目的使用	その他				目的使用	その他		
一般貸倒引当金	11,789	11,146	-	※11,789	11,146	10,841	10,003	-	※10,841	10,003
個別貸倒引当金	13,765	12,600	1,249	※12,515	12,600	12,040	11,030	1,209	※10,831	11,030
うち非居住者向け債権分	-	159	-	-	159	159	143	-	※159	143
特定海外債権引当金勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25,555				23,746	22,882				21,033

(注) ※洗替による取崩額であります。

●個別貸倒引当金（地域別、業種別）

(単位：百万円)

	連結									
	平成27年9月期				平成28年9月期					
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
地域別										
国内計	16,646	15,238	16,646	15,238	14,451	13,345	14,451	13,345		
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	16,530	15,129	16,530	15,129	14,325	13,238	14,325	13,238		
その他	115	109	115	109	125	106	125	106		
国外計	-	159	-	159	159	143	159	143		
合計	16,646	15,398	16,646	15,398	14,610	13,488	14,610	13,488		
業種別										
製造業	3,171	3,127	3,171	3,127	3,049	3,418	3,049	3,418		
農業、林業	18	18	18	18	17	15	17	15		
漁業	2	2	2	2	2	2	2	2		
鉱業、採石業、砂利採取業	5	5	5	5	5	4	5	4		
建設業	675	643	675	643	705	744	705	744		
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-		
情報通信業	29	3	29	3	3	1	3	1		
運輸業、郵便業	190	127	190	127	60	49	60	49		
卸売業、小売業	5,255	5,028	5,255	5,028	5,010	3,542	5,010	3,542		
金融業、保険業	362	354	362	354	349	75	349	75		
不動産業、物品賃貸業	2,797	1,977	2,797	1,977	1,531	1,625	1,531	1,625		
各種サービス業	1,122	1,013	1,122	1,013	1,018	1,275	1,018	1,275		
地方公共団体	-	-	-	-	-	-	-	-		
個人	3,013	2,937	3,013	2,937	2,696	2,589	2,696	2,589		
その他	-	159	-	159	159	143	159	143		
合計	16,646	15,398	16,646	15,398	14,610	13,488	14,610	13,488		

(単位：百万円)

	単体									
	平成27年9月期				平成28年9月期					
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
地域別										
国内計	13,765	12,440	13,765	12,440	11,880	10,887	11,880	10,887		
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	13,650	12,331	13,650	12,331	11,755	10,780	11,755	10,780		
その他	115	109	115	109	125	106	125	106		
国外計	-	159	-	159	159	143	159	143		
合計	13,765	12,600	13,765	12,600	12,040	11,030	12,040	11,030		
業種別										
製造業	3,162	3,117	3,162	3,117	3,040	3,404	3,040	3,404		
農業、林業	18	18	18	18	17	15	17	15		
漁業	2	2	2	2	2	2	2	2		
鉱業、採石業、砂利採取業	5	5	5	5	5	4	5	4		
建設業	674	642	674	642	704	744	704	744		
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-		
情報通信業	29	3	29	3	3	1	3	1		
運輸業、郵便業	190	127	190	127	59	48	59	48		
卸売業、小売業	5,228	5,001	5,228	5,001	4,984	3,513	4,984	3,513		
金融業、保険業	362	354	362	354	349	75	349	75		
不動産業、物品賃貸業	2,790	1,971	2,790	1,971	1,531	1,625	1,531	1,625		
各種サービス業	1,041	937	1,041	937	952	1,224	952	1,224		
地方公共団体	-	-	-	-	-	-	-	-		
個人	257	258	257	258	228	226	228	226		
その他	-	159	-	159	159	143	159	143		
合計	13,765	12,600	13,765	12,600	12,040	11,030	12,040	11,030		

(注) 1. 一般貸倒引当金は地域別、業種別に算定を行っておりません。
2. 特定海外債権引当勘定は該当ありません。

●貸出金償却額（業種別）

（単位：百万円）

業種別	平成27年9月期		平成28年9月期	
	連結	単体	連結	単体
製造業	-	-	23	23
農業、林業	0	0	-	-
漁業	-	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-
建設業	0	0	-	-
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-
情報通信業	-	-	-	-
運輸業、郵便業	-	-	-	-
卸売業、小売業	-	-	-	-
金融業、保険業	-	-	-	-
不動産業、物品賃貸業	-	-	-	-
各種サービス業	-	-	-	-
地方公共団体	-	-	-	-
個人	0	0	0	0
その他	-	-	-	-
合計	0	0	23	23

●標準的手法が適用されるエクスポージャーについてリスク・ウェイト区分毎の信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

（単位：百万円）

リスク・ウェイト	連結				単体			
	平成27年9月期		平成28年9月期		平成27年9月期		平成28年9月期	
	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し
0%	-	91	-	75	-	0	-	0
20%	1,175	0	1,739	0	860	0	1,230	0
50%	-	4	-	2	-	-	-	-
75%	-	0	-	0	-	0	-	0
100%	-	21,171	-	24,970	-	2,073	-	5,519
150%	-	0	-	0	-	-	-	-
250%	-	575	-	525	-	-	-	-
1250%	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,175	21,842	1,739	25,575	860	2,074	1,230	5,519

（注）「格付有り」とは、適格格付機関が付与した格付を参照しリスク・ウェイトを判定したエクスポージャーであります。
 なお、適格格付機関として、株式会社格付投資情報センター（R&I）、株式会社日本格付研究所（JCR）、ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Moody's）、S&Pグローバル・レーティング（S&P）を使用しております。

●内部格付手法が適用されるエクスポージャーのうち、スロットティング・クライテリアに割り当てられた特定貸付債権のリスク・ウェイト区分毎の残高

●プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付

（単位：百万円）

スロットティング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト	平成27年9月期	平成28年9月期
優	2.5年未満	50%	-	-
	2.5年以上	70%	-	-
良	2.5年未満	70%	289	548
	2.5年以上	90%	8,190	11,655
可	-	115%	251	-
弱い	-	250%	360	60
デフォルト	-	0%	-	-
合計	-	-	9,091	12,263

●ボラティリティの高い事業用不動産向け貸付

該当ありません。

（注）1. 連結子会社では該当ありません。
 2. 特定貸付債権とは、プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付に該当する貸付債権であります。
 3. スロットティング・クライテリアとは、自己資本比率告示第153条第4項及び第6項に規定する、優・良・可・弱い・デフォルトの5つの区分であります。

●内部格付手法が適用されるエクスポージャーのうち、マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト区分毎の残高

（単位：百万円）

上場/非上場	リスク・ウェイト	連結		単体	
		平成27年9月期	平成28年9月期	平成27年9月期	平成28年9月期
上場	300%	38,557	47,296	38,249	46,932
非上場	400%	634	618	82	82
合計	-	39,191	47,914	38,331	47,014

（注）マーケット・ベース方式における簡易手法とは、上場株式については300%、非上場株式については400%のリスク・ウェイトを乗じた額を信用リスク・アセットの額とする方式であります。

●内部格付手法が適用されるポートフォリオについての事項

●事業法人向け、ソブリン向け、金融機関等向けエクスポージャー及びPD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーに係る債務者格付別パラメータ等
(単位：百万円)

債務者格付	連結					
	平成27年9月期					
	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
				オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目	
事業法人向けエクスポージャー		3.29%	42.74%	59.09%	2,145,589	70,991
上位格付	正常先	0.13	43.96	33.72	1,231,207	57,426
中位格付	正常先	1.33	41.19	76.73	631,916	10,968
下位格付	要注意先	10.77	40.54	153.39	246,427	2,588
デフォルト	要管理先以下	100.00	42.23	0.00	36,038	7
ソブリン向けエクスポージャー		0.01	45.00	4.08	3,208,930	347,841
上位格付	正常先	0.01	45.00	4.06	3,208,120	347,841
中位格付	正常先	1.56	35.00	87.41	809	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
金融機関等向けエクスポージャー		0.10	41.93	34.92	381,179	33,367
上位格付	正常先	0.10	41.92	34.83	380,078	33,367
中位格付	正常先	0.81	45.00	70.31	1,100	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー		0.23	90.00	115.77	176,266	-
上位格付	正常先	0.08	90.00	110.10	172,429	-
中位格付	正常先	0.94	90.00	227.43	2,239	-
下位格付	要注意先	7.35	90.00	519.98	1,461	-
デフォルト	要管理先以下	100.00	90.00	1,125.00	135	-

債務者格付	連結					
	平成28年9月期					
	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
				オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目	
事業法人向けエクスポージャー		2.63%	42.85%	57.21%	2,374,878	82,532
上位格付	正常先	0.12	43.90	34.46	1,443,267	65,207
中位格付	正常先	1.26	41.25	76.11	662,203	15,182
下位格付	要注意先	9.92	40.88	153.47	239,195	2,140
デフォルト	要管理先以下	100.00	42.45	0.00	30,212	1
ソブリン向けエクスポージャー		0.01	45.00	4.02	3,131,018	384,239
上位格付	正常先	0.01	45.00	3.97	3,129,151	384,239
中位格付	正常先	2.14	41.21	94.72	1,866	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
金融機関等向けエクスポージャー		0.10	40.26	36.38	356,253	51,122
上位格付	正常先	0.10	40.25	36.29	355,127	51,122
中位格付	正常先	0.75	45.00	67.65	1,100	-
下位格付	要注意先	6.16	45.00	170.54	25	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー		0.19	90.00	115.76	178,755	-
上位格付	正常先	0.08	90.00	109.97	174,528	-
中位格付	正常先	1.39	90.00	270.35	2,802	-
下位格付	要注意先	7.37	90.00	498.46	1,373	-
デフォルト	要管理先以下	100.00	90.00	1,125.00	51	-

(注) 1. 事業法人向けエクスポージャーは、中堅中小企業向けエクスポージャーを含みますが、特定貸付債権及び購入債権は含んでおりません。
 2. 「上位格付」はS~C格、「中位格付」はD~G格、「下位格付」はH~J格であります。
 3. リスク・ウェイトの加重平均値は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを乗じる前の信用リスク・アセットの額を基に算出してあります。
 4. EADとは、内部格付手法が適用されるエクスポージャーについてデフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した金額であります。
 5. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF(与信換算掛目)適用後の数値を使用しております。
 6. 他の金融機関等の普通株式等を除く資本調達手段を含んでおりません。
 7. PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト加重平均値は、期待損失額に1,250%を乗じた額を加算した信用リスク・アセット額を基に算出してあります。

(単位：百万円)

債務者格付	単体					
	平成27年9月期					
	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
オン・バランス 資産項目					オフ・バランス 資産項目	
事業法人向けエクスポージャー		3.29%	42.75%	59.38%	2,154,331	70,991
上位格付	正常先	0.13	43.96	33.72	1,231,207	57,426
中位格付	正常先	1.35	41.24	77.50	640,658	10,968
下位格付	要注意先	10.77	40.54	153.39	246,427	2,588
デフォルト	要管理先以下	100.00	42.23	0.00	36,038	7
ソブリン向けエクスポージャー		0.01	45.00	4.08	3,205,528	347,841
上位格付	正常先	0.01	45.00	4.06	3,204,719	347,841
中位格付	正常先	1.56	35.00	87.41	809	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
金融機関等向けエクスポージャー		0.10	41.93	34.92	381,179	33,367
上位格付	正常先	0.10	41.92	34.83	380,078	33,367
中位格付	正常先	0.81	45.00	70.31	1,100	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー		0.25	90.00	119.45	178,885	-
上位格付	正常先	0.08	90.00	110.11	172,460	-
中位格付	正常先	1.39	90.00	303.66	4,828	-
下位格付	要注意先	7.35	90.00	519.98	1,461	-
デフォルト	要管理先以下	100.00	90.00	1,125.00	135	-

債務者格付	単体					
	平成28年9月期					
	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
オン・バランス 資産項目					オフ・バランス 資産項目	
事業法人向けエクスポージャー		2.62%	42.86%	57.39%	2,383,617	82,532
上位格付	正常先	0.12	43.90	34.46	1,443,267	65,207
中位格付	正常先	1.26	41.30	76.51	670,943	15,182
下位格付	要注意先	9.92	40.88	153.47	239,195	2,140
デフォルト	要管理先以下	100.00	42.45	0.00	30,212	1
ソブリン向けエクスポージャー		0.01	45.00	4.02	3,131,018	384,239
上位格付	正常先	0.01	45.00	3.97	3,129,151	384,239
中位格付	正常先	2.14	41.21	94.72	1,866	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
金融機関等向けエクスポージャー		0.10	40.26	36.38	356,253	51,122
上位格付	正常先	0.10	40.25	36.29	355,127	51,122
中位格付	正常先	0.75	45.00	67.65	1,100	-
下位格付	要注意先	6.16	45.00	170.54	25	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー		0.19	90.00	117.44	181,375	-
上位格付	正常先	0.08	90.00	109.97	174,546	-
中位格付	正常先	0.96	90.00	252.29	5,404	-
下位格付	要注意先	7.37	90.00	498.46	1,373	-
デフォルト	要管理先以下	100.00	90.00	1,125.00	51	-

- (注) 1. 事業法人向けエクスポージャーは、中堅中小企業向けエクスポージャーを含みますが、特定貸付債権及び購入債権は含んでおりません。
2. 「上位格付」はS～C格、「中位格付」はD～G格、「下位格付」はH～J格であります。
3. リスク・ウェイトの加重平均値は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを乗じる前の信用リスク・アセットの額を基に算出してあります。
4. EADとは、内部格付手法が適用されるエクスポージャーについてデフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した金額であります。
5. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF(与信換算掛目)適用後の数値を使用しております。
6. 他の金融機関等の普通株式等を除く資本調達手段を含んでおりません。
7. PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト加重平均値は、期待損失額に1,250%を乗じた額を加算した信用リスク・アセット額を基に算出してあります。

● 居住用不動産向け、適格リボルビング型リテール向け及びその他リテール向けエクスポージャーに係る
プール区分別パラメータ等

(単位：百万円)

プール区分	連結							
	平成27年9月期							
	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	ELdefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント未引出額	
オン・バランス 資産項目					オフ・バランス 資産項目		掛目加重 平均値	
居住用不動産向けエクスポージャー	2.30%	37.88%	-	34.31%	1,388,960	-	-	-
非延滞先	0.78	37.84	-	33.27	1,365,128	-	-	-
延滞先	32.26	40.31	-	234.37	3,758	-	-	-
デフォルト	100.00	40.16	34.73%	67.95	20,073	-	-	-
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	0.65	97.75	-	17.58	14,817	64,524	150,657	43.14%
非延滞先	0.50	97.77	-	16.98	14,582	64,505	150,461	43.17
延滞先	20.19	95.78	-	252.06	161	6	144	18.07
デフォルト	100.00	79.30	70.36	111.71	74	12	51	44.45
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	5.11	24.35	-	25.50	52,755	933	1,786	49.97
非延滞先	2.03	24.28	-	24.89	51,036	931	1,782	49.97
延滞先	37.20	26.06	-	69.02	52	0	1	51.07
デフォルト	100.00	26.44	23.00	43.02	1,667	0	2	51.07
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	3.96	48.13	-	36.91	11,983	140	401	33.23
非延滞先	1.04	48.39	-	35.60	11,592	133	382	33.23
延滞先	32.38	45.79	-	118.96	57	0	-	-
デフォルト	100.00	39.74	34.29	68.02	333	6	18	33.23

プール区分	連結							
	平成28年9月期							
	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	ELdefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント未引出額	
オン・バランス 資産項目					オフ・バランス 資産項目		掛目加重 平均値	
居住用不動産向けエクスポージャー	2.06%	36.67%	-	32.10%	1,430,199	-	-	-
非延滞先	0.75	36.63	-	31.23	1,409,258	-	-	-
延滞先	31.81	38.51	-	224.17	2,939	-	-	-
デフォルト	100.00	39.19	33.69%	68.78	18,001	-	-	-
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	0.51	88.23	-	12.85	14,802	82,595	168,043	49.37%
非延滞先	0.40	88.25	-	12.57	14,609	82,575	167,858	49.40
延滞先	19.52	87.01	-	225.93	127	5	140	20.28
デフォルト	100.00	71.00	71.00	0.00	65	13	45	48.91
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	5.02	23.37	-	23.95	60,324	925	1,736	49.17
非延滞先	1.86	23.29	-	23.27	58,311	922	1,731	49.17
延滞先	36.78	22.52	-	59.58	69	1	3	49.17
デフォルト	100.00	25.81	22.34	43.44	1,942	0	1	49.17
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	2.80	47.03	-	34.74	14,990	121	349	33.23
非延滞先	0.90	47.22	-	34.10	14,686	120	348	33.23
延滞先	33.06	46.70	-	121.78	19	-	-	-
デフォルト	100.00	37.06	32.07	62.36	283	0	1	33.23

(注) 1. リスク・ウェイトの加重平均値は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを乗じる前の信用リスク・アセットの額を基に算出しております。
2. EADとは、内部格付手法が適用されるエクスポージャーについてデフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した金額であります。
3. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

(単位：百万円)

プール区分	単体							
	平成27年9月期							
	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	ELdefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント未引出額	
				オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目		掛目加重 平均値	
居住用不動産向けエクスポージャー	2.23%	37.87%	-	34.23%	1,388,001	-	-	-
非延滞先	0.78	37.84	-	33.27	1,365,128	-	-	-
延滞先	32.26	40.31	-	234.37	3,758	-	-	-
デフォルト	100.00	39.30	34.19%	63.88	19,113	-	-	-
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	0.65	97.75	-	17.58	14,817	64,524	150,657	43.14%
非延滞先	0.50	97.77	-	16.98	14,582	64,505	150,461	43.17
延滞先	20.19	95.78	-	252.06	161	6	144	18.07
デフォルト	100.00	79.30	70.36	111.71	74	12	51	44.45
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	5.11	24.35	-	25.50	52,755	933	1,786	49.97
非延滞先	2.03	24.28	-	24.89	51,036	931	1,782	49.97
延滞先	37.20	26.06	-	69.02	52	0	1	51.07
デフォルト	100.00	26.44	23.00	43.02	1,667	0	2	51.07
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	3.81	48.11	-	36.71	11,964	140	401	33.23
非延滞先	1.04	48.39	-	35.60	11,592	133	382	33.23
延滞先	32.38	45.79	-	118.96	57	0	-	-
デフォルト	100.00	38.36	33.37	62.43	314	6	18	33.23

プール区分	単体							
	平成28年9月期							
	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	ELdefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント未引出額	
				オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目		掛目加重 平均値	
居住用不動産向けエクスポージャー	2.01%	36.66%	-	32.02%	1,429,371	-	-	-
非延滞先	0.75	36.63	-	31.23	1,409,258	-	-	-
延滞先	31.81	38.51	-	224.17	2,939	-	-	-
デフォルト	100.00	38.18	33.05%	64.23	17,173	-	-	-
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	0.51	88.23	-	12.85	14,802	82,595	168,043	49.37%
非延滞先	0.40	88.25	-	12.57	14,609	82,575	167,858	49.40
延滞先	19.52	87.01	-	225.93	127	5	140	20.28
デフォルト	100.00	71.00	71.00	0.00	65	13	45	48.91
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	5.02	23.37	-	23.95	60,324	925	1,736	49.17
非延滞先	1.86	23.29	-	23.27	58,311	922	1,731	49.17
延滞先	36.78	22.52	-	59.58	69	1	3	49.17
デフォルト	100.00	25.81	22.34	43.44	1,942	0	1	49.17
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	2.80	47.03	-	34.74	14,989	121	349	33.23
非延滞先	0.90	47.22	-	34.10	14,686	120	348	33.23
延滞先	33.06	46.70	-	121.78	19	-	-	-
デフォルト	100.00	37.00	32.02	62.20	283	0	1	33.23

- (注) 1. リスク・ウェイトの加重平均値は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを乗じる前の信用リスク・アセットの額を基に算出しております。
2. EADとは、内部格付手法が適用されるエクスポージャーについてデフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した金額であります。
3. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

●内部格付手法を適用する事業法人向けエクスポージャー、ソブリン向けエクスポージャー、金融機関等向けエクスポージャー、PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー、居住用不動産向けエクスポージャー、適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー及びその他リテール向けエクスポージャー毎の直前期における損失額の実績値と過去の実績値との対比 (単位：百万円)

区分	連結			単体		
	平成27年9月期	平成28年9月期	増減額	平成27年9月期	平成28年9月期	増減額
事業法人向け	18,572	12,248	△ 6,323	18,572	12,248	△ 6,323
ソブリン向け	-	-	-	-	-	-
金融機関等向け	-	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等	6	10	4	6	10	4
居住用不動産向け	2,737	2,357	△ 380	214	177	△ 36
適格リボルビング型リテール向け	-	-	-	-	-	-
その他リテール向け	219	236	16	185	200	15
合計	21,536	14,853	△ 6,683	18,978	12,637	△ 6,341

(注) 1. 損失額の実績値は、過去1年間に生じた直接償却額及び債権売却損失額と期末時点における個別貸倒引当金及び要管理先に対する一般貸倒引当金の合計額であります。なお、価格変動リスクの実現のみによる売却損や償却は含めておりません。
 2. 連結の損失額の実績値においては、内部格付手法適用子会社である京都信用保証サービス株式会社の求償債権に係る直接償却額、債権売却損失額及び個別貸倒引当金のほか、保証債務に係る個別貸倒引当金及びデフォルトした債権の一般貸倒引当金を含めております。

<要因分析>

主に、事業法人向けエクスポージャーにおいて、直接償却や債権売却が減少したこと、および破綻懸念先以下の与信残高の減少に伴い個別貸倒引当金が減少したことから、損失額の実績値は前年対比減少しました。

●内部格付手法を適用する事業法人向けエクスポージャー、ソブリン向けエクスポージャー、金融機関等向けエクスポージャー、PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー、居住用不動産向けエクスポージャー、適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー及びその他リテール向けエクスポージャー毎の長期にわたる損失額の推計値と実績値との対比 (単位：百万円)

区分	連結					
	平成25年9月期			平成26年9月期		
	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)
事業法人向け	26,407	50,803	△ 24,396	22,595	42,829	△ 20,233
ソブリン向け	-	105	△ 105	-	79	△ 79
金融機関等向け	-	1,218	△ 1,218	-	912	△ 912
PD/LGD方式を適用する株式等	-	93	△ 93	19	135	△ 116
居住用不動産向け	3,144	13,197	△ 10,052	2,861	12,793	△ 9,931
適格リボルビング型リテール向け	0	315	△ 315	-	305	△ 305
その他リテール向け	187	844	△ 657	245	703	△ 457
合計	29,739	66,579	△ 36,839	25,722	57,759	△ 32,037

区分	連結					
	平成27年9月期			平成28年9月期		
	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)
事業法人向け	18,572	37,855	△ 19,283	12,248	30,324	△ 18,075
ソブリン向け	-	75	△ 75	-	130	△ 130
金融機関等向け	-	203	△ 203	-	177	△ 177
PD/LGD方式を適用する株式等	6	-	6	10	-	10
居住用不動産向け	2,737	12,111	△ 9,373	2,357	11,429	△ 9,072
適格リボルビング型リテール向け	-	378	△ 378	-	463	△ 463
その他リテール向け	219	731	△ 511	236	823	△ 587
合計	21,536	51,355	△ 29,819	14,853	43,348	△ 28,495

区分	単体					
	平成25年9月期			平成26年9月期		
	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)
事業法人向け	26,407	50,877	△ 24,470	22,595	42,894	△ 20,299
ソブリン向け	-	105	△ 105	-	79	△ 79
金融機関等向け	-	1,218	△ 1,218	-	912	△ 912
PD/LGD方式を適用する株式等	-	93	△ 93	19	172	△ 153
居住用不動産向け	319	12,512	△ 12,192	219	12,151	△ 11,931
適格リボルビング型リテール向け	0	315	△ 315	-	305	△ 305
その他リテール向け	107	825	△ 718	188	681	△ 493
合計	26,834	65,948	△ 39,113	23,022	57,198	△ 34,175

区分	単体					
	平成27年9月期			平成28年9月期		
	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)
事業法人向け	18,572	37,981	△ 19,409	12,248	30,441	△ 18,192
ソブリン向け	-	75	△ 75	-	130	△ 130
金融機関等向け	-	203	△ 203	-	177	△ 177
PD/LGD方式を適用する株式等	6	-	6	10	-	10
居住用不動産向け	214	11,721	△ 11,507	177	10,992	△ 10,814
適格リボルビング型リテール向け	-	378	△ 378	-	463	△ 463
その他リテール向け	185	726	△ 541	200	814	△ 613
合計	18,978	51,086	△ 32,108	12,637	43,019	△ 30,381

(注) 損失額の実績値は、過去1年間の実績値としております。また、損失額の推計値は、前年同期の自己資本比率算出の際に用いた期待損失額としております。

信用リスク削減手法

●信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

エクスポージャー区分	平成27年9月期				平成28年9月期			
	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証	クレジット・デリバティブ	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証	クレジット・デリバティブ
標準的手法適用分	9,314	-	-	-	8,793	-	-	-
内部格付手法適用分	43,809	434,272	425,714	-	60,004	454,151	455,344	-
事業法人向け	15,546	433,463	261,217	-	17,085	453,443	236,446	-
ソブリン向け	-	809	129,343	-	-	707	183,651	-
金融機関等向け	28,263	-	-	-	42,919	-	-	-
居住用不動産向け	-	-	896	-	-	-	698	-
適格リボルビング型リテール向け	-	-	2,708	-	-	-	2,372	-
その他リテール向け	-	-	31,549	-	-	-	32,175	-
合計	53,124	434,272	425,714	-	68,798	454,151	455,344	-

- (注) 1. 連結子会社において信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーはございません。
 2. 適格金融資産担保とは、現預金、国債・地方債、上場株式等であります。
 3. 適格資産担保とは、割引手形動定の商業手形や電子記録債権、法的に有効な担保権が設定されている不動産担保等であります。

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスク

●派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

(単位：百万円)

項目	平成27年9月期	平成28年9月期
ネットिंग効果ならびに担保による信用リスク削減手法の効果を 勘案する前の与信相当額 (A)	8,751	10,475
グロス再構築コストの合計額	4,311	6,942
グロスのアドオンの合計額	4,440	3,532
一括清算ネットING契約による与信相当額削減効果額 (B)	-	-
ネットING効果勘案後で担保による信用リスク削減手法の効果を 勘案する前の与信相当額 (C) = (A) - (B)	8,751	10,475
派生商品取引	8,751	10,475
外国為替関連取引及び金関連取引	4,924	6,619
金利関連取引	3,827	3,855
株式関連取引	-	-
貴金属関連取引(金取引を除く)	-	-
その他コモディティ関連取引	-	-
クレジット・デリバティブ	-	-
長期決済期間取引	-	-
担保の額	1,226	1,473
適格金融資産担保	60	148
適格資産担保	1,165	1,325
ネットING効果ならびに担保による信用リスク削減手法の効果を 勘案した後の与信相当額	8,722	10,360

- (注) 1. 全ての派生商品取引において、与信相当額はカレントエクスポージャー方式を採用して算出しております。
 2. 連結子会社において派生商品取引はございません。
 3. クレジット・デリバティブに該当する取引はございません。

証券化エクスポージャー

- 銀行又は連結グループがオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャー
該当ありません。
- 銀行又は連結グループが投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャー
- 主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

原資産の種類	平成27年9月期		平成28年9月期	
	残高		残高	
		うち再証券化 エクスポージャー		うち再証券化 エクスポージャー
アパートローン債権	21	-	5	-
住宅ローン債権	4,249	-	2,647	-
商業用不動産向け債権	-	-	-	-
中小企業向けローン債権	-	-	-	-
企業向け貸付債権	-	-	-	-
リース債権	-	-	-	-
合計	4,270	-	2,652	-

(注) 1. 全てオン・バランス取引であり、オフ・バランス取引は該当ございません。
2. 連結子会社では該当ありません。

- リスク・ウェイトの区分毎の残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	平成27年9月期				平成28年9月期			
	残高		所要自己資本		残高		所要自己資本	
		うち再証券化 エクスポージャー		うち再証券化 エクスポージャー		うち再証券化 エクスポージャー		うち再証券化 エクスポージャー
7%	4,270	-	25	-	2,652	-	15	-
20%	-	-	-	-	-	-	-	-
1,250%	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	4,270	-	25	-	2,652	-	15	-

(注) 1. 全てオン・バランス取引であり、オフ・バランス取引は該当ございません。
2. 連結子会社では該当ありません。
3. 所要自己資本の額はリスク・アセットの額×8%で算出しております。
なお、自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを考慮しております。

- 自己資本比率告示第247条第1項の規定により1,250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳
該当ありません。
- 再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用について
信用リスク削減手法を適用した再証券化エクスポージャーはございません。
- 銀行又は連結グループがオリジネーターである場合におけるマーケット・リスク相当額の算出対象となる証券化エクスポージャー
該当ありません。
- 銀行又は連結グループが投資家である場合におけるマーケット・リスク相当額の算出対象となる証券化エクスポージャー
該当ありません。

マーケット・リスク

- マーケット・リスク
マーケット・リスク相当額にかかる額を算入していません。

銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャー

●貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	連結			
	平成27年9月期		平成28年9月期	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場株式等エクスポージャー	608,342	608,342	650,548	650,548
上場株式等エクスポージャー以外	3,289	3,289	3,475	3,475
計	611,632	611,632	654,023	654,023
	単体			
	平成27年9月期		平成28年9月期	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場株式等エクスポージャー	607,559	607,559	649,738	649,738
上場株式等エクスポージャー以外	5,355	5,355	5,552	5,552
計	612,914	612,914	655,290	655,290

●売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成27年9月期	平成28年9月期	平成27年9月期	平成28年9月期
売却損益額	778	1,535	778	1,437
償却額	141	0	141	0

●貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	平成27年9月期	平成28年9月期	平成27年9月期	平成28年9月期
貸借対照表で認識され、かつ、 損益計算書で認識されない評価損益の額	396,037	427,111	395,563	426,665

●貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

連結・単体とも該当ありません。

●株式等エクスポージャーのポートフォリオの区分毎の額

(単位：百万円)

区分	連結	
	平成27年9月期	平成28年9月期
マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャー	39,191	47,914
マーケット・ベース方式の内部モデル手法が適用される株式等エクスポージャー	-	-
PD/LGD方式が適用される株式等エクスポージャー	176,482	179,072
上記以外でリスク・ウェイト100%が適用される株式等エクスポージャー	0	0
合計	215,674	226,987

区分	単体	
	平成27年9月期	平成28年9月期
マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャー	38,331	47,014
マーケット・ベース方式の内部モデル手法が適用される株式等エクスポージャー	-	-
PD/LGD方式が適用される株式等エクスポージャー	179,102	181,691
上記以外でリスク・ウェイト100%が適用される株式等エクスポージャー	0	0
合計	217,433	228,706

信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー

●信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

(単位：百万円)

区分	連結	
	平成27年9月期	平成28年9月期
ルックスルー方式	31,680	14,483
修正単純過半数方式	25,729	24,429
マンデート方式	1,448	1,759
簡便方式（リスク・ウェイト400%）	-	-
簡便方式（リスク・ウェイト1,250%）	982	0
合計	59,841	40,672

区分	単体	
	平成27年9月期	平成28年9月期
ルックスルー方式	31,680	14,483
修正単純過半数方式	25,729	24,429
マンデート方式	1,447	1,758
簡便方式（リスク・ウェイト400%）	-	-
簡便方式（リスク・ウェイト1,250%）	982	0
合計	59,840	40,672

- (注) 1. ルックスルー方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足し上げる方式であります。
 2. 修正単純過半数方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産の総額の過半数を占める株式等エクスポージャーに対応するリスク・ウェイトを適用する方式であります。
 3. マンデート方式とは、ファンドの運用基準に基づき最も信用リスク・アセットが大きくなる資産構成を想定し、個々の資産の信用リスク・アセットを足し上げる方式であります。
 4. 簡便方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が400%を下回る蓋然性が高い場合は400%のリスク・ウェイトを適用し、それ以外の場合は1,250%のリスク・ウェイトを適用する方式であります。

銀行勘定における金利リスク

●銀行勘定における金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

金利リスクに関しては、連結貸借対照表における総資産の大部分を銀行が占めることから銀行単体にて月次で計測し、管理しております。

また、円貨流動性預金の金利リスクについては、コア預金内部モデルでの計測結果を使用して算出、期限前返済については、一部の債券を除いて、期限前返済（解約）はないものとして計測しております。

(単位：百万円)

	平成27年9月期	平成28年9月期
VaR	7,027	9,714

(注) 算定手法は、信頼係数：99%、保有期間：1か月、シミュレーション法：ヒストリカル・シミュレーション法であります。

(単位：百万円)

	平成27年9月期	平成28年9月期
アウトライヤー基準に基づく標準的金利ショックによって計算される経済的価値の増減額	22,159	11,680
アウトライヤー比率	5.9%	3.0%

(注) 金利ショックは、円貨、外貨ともに99パーセンタイル値と1パーセンタイル値であります。

索引

<p>あ</p> <p>1店舗当たり貸出金……………23</p> <p>1店舗当たり預金……………22</p> <p>受取・支払利息の分析……………19</p> <p>営業経費の内訳……………20</p> <p>役務取引の状況……………20</p> <p>大株主の状況……………33</p>	<p>た</p> <p>単体経営指標……………2</p> <p>単体自己資本比率……………2、43</p> <p>地域活性化への取組み……………38</p> <p>地域貢献に関する考え方……………34</p> <p>地域の成長産業に対する支援強化……………38</p> <p>「地域密着型金融」の取組方針……………34</p> <p>中間株主資本等変動計算書……………14</p> <p>中間純利益……………2</p> <p>中間損益計算書……………13</p> <p>中間貸借対照表……………12</p> <p>中間連結株主資本等変動計算書……………5</p> <p>中間連結キャッシュ・フロー計算書……………6</p> <p>中間連結損益計算書……………4</p> <p>中間連結貸借対照表……………3</p> <p>中間連結包括利益計算書……………4</p> <p>中小企業等に対する貸出金……………25</p> <p>定期預金の残存期間別残高……………21</p> <p>デリバティブ取引情報……………31～32</p> <p>特定海外債権残高……………25</p>
<p>か</p> <p>外貨建資産……………33</p> <p>貸倒引当金残高、期中増減額……………25</p> <p>貸出金科目別残高……………23</p> <p>貸出金使途別残高……………24</p> <p>貸出金償却額……………25</p> <p>貸出金の残存期間別残高……………23</p> <p>貸出金の担保別内訳……………24</p> <p>貸出金の預金に対する比率……………23</p> <p>観光産業に対する取組み……………38</p> <p>業種別貸出状況……………24</p> <p>業務粗利益……………17</p> <p>業務純益……………2、20</p> <p>金銭の信託関係……………30</p> <p>金融円滑化への取組みについて……………34</p> <p>金融再生法に基づく開示債権残高……………26</p> <p>金融仲介機能の充実に向けた活動 (金融仲介機能のベンチマーク)……………40</p> <p>経営改善・事業再生・業種転換等の支援……………37</p> <p>経営環境と業績……………1</p> <p>経営理念……………表紙裏</p> <p>経常利益……………2</p> <p>公共債および証券投資信託の窓口販売額……………28</p> <p>公共債引受額……………28</p>	<p>は</p> <p>プロフィール……………表紙裏</p>
<p>さ</p> <p>財形貯蓄残高……………22</p> <p>事業再生等への支援……………41</p> <p>事業承継の支援……………37</p> <p>事業性評価の取組み……………40</p> <p>資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り……………17～18</p> <p>自己資本の充実の状況……………42～60</p> <p>自動機器設置状況……………33</p> <p>支払承諾見返の担保別内訳……………24</p> <p>資本金の推移……………33</p> <p>従業員数……………2</p> <p>従業員1人当たり貸出金……………23</p> <p>従業員1人当たり預金……………22</p> <p>住宅ローン・消費者ローン残高……………25</p> <p>主要な経営指標の推移……………2</p> <p>商品有価証券売買高……………28</p> <p>商品有価証券平均残高……………28</p> <p>成長段階における支援……………36</p> <p>セグメント情報等……………11</p> <p>創業・新規事業開拓の支援……………35</p> <p>総資産額……………2</p> <p>その他業務利益の内訳……………20</p> <p>その他有価証券評価差額金……………30</p>	<p>や</p> <p>有価証券関係情報……………29～30</p> <p>有価証券残高……………27</p> <p>有価証券の残存期間別残高……………27</p> <p>有価証券の預金に対する比率……………28</p> <p>預金科目別残高……………21</p> <p>預金者別預金残高……………22</p>
<p>ら</p> <p>ライフステージに応じた経営支援の取組み……………35</p> <p>ライフステージに応じたソリューション提供……………41</p> <p>利益率……………20</p> <p>利鞘……………20</p> <p>リスク管理債権残高……………26</p> <p>連結経営指標……………2</p> <p>連結自己資本比率……………2、42</p>	



「京都銀行ディスクロージャー誌 2016年9月中間期」
平成29年1月発行

発行 株式会社京都銀行 総合企画部
〒600-8652 京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地
TEL 075(361)2211
<http://www.kyotobank.co.jp/>